

(1) 母なる大山の物語 —地形が生んだ歴史と文化—

【ストーリー】

鳥取県の西部にそびえる中国地方最高峰の大山は、特に西側から見る山の姿が富士山に似ていることから伯耆富士とも呼ばれている。各地からその雄大な姿を見ることができ、『出雲国風土記』に「火神岳」と記載されるなど古代から人々の心を引き付けてきた。主峰の剣ヶ峰をはじめとして、三鉢峰、烏ヶ山、船上山などの峰々が連なっているが、これは100万年以上前から約1万7000年前にかけての噴火活動により生成されたと言われている。この複雑な地形と気候により、多様な人々の営みが生まれ、多くの文化財やこの土地特有の天然記念物を見ることができる。

大山山麓周辺は鳥取県内で最も早く人々が住み着いた地域と考えられており、北麓の丘陵地に位置する豊成叶林遺跡では、約2万8千～3万年前に降り積もった火山灰層の直下で旧石器時代の石器制作跡や石器が発見され、この当時から祖先は大山の豊かな大地で獲物を追い、生活をしてきたことが分かる。続く縄文時代の遺跡も密に分布し、弥生時代には、大山北西山麓の丘陵地に位置する妻木晩田遺跡があり、大規模な集落が形成されていた。出土遺物からは、日本海を行き来した交易があったことも確認でき、大山山麓における中心的な集落であったと考えられている。古墳時代においては、妻木晩田遺跡や向山古墳群など、前方後円墳を含む多くの古墳があり、続く奈良時代には、彩色壁画が出土したことで知られる上淀廃寺跡があるなど、引き続き中心的な場であったことが窺える。

また、大山は『出雲国風土記』の国引神話に登場するなど、古くから信仰の山として崇拝され、地域の中心として栄えた。山腹には大神山神社奥宮や大山寺などが建ち並び、江戸時代から続く大山のもひとり神事などの民俗行事も現在に残っている。大山から北西に流れ落ちる阿弥陀川の西側に形成された扇状地には、大山の古くからの参詣道である坊領道沿いに近世以降門脇家を中心とする所子集落などが形成されており、現在も歴史的景観が残る。さらに、近代以降の作庭と言われている南門脇家住宅庭園や、近世以降の作庭と言われている米子市の高田家住宅庭園は、大山を借景として取り入れており、古代から現代に至るまで大山は象徴的な存在として、また信仰の対象として親しまれてきたことが窺える。

そして、大山は標高の高い孤立峰であることから、氷河時代から残る植物が飛地的に分布していたり、多雪により埋もれた植物が一定の温度で保護されることから比較的寒さに強い南方系の植物が生息するなど、特有の植物分布が見られる。一例として、ブナの高木が途切れると、ダイセンミツバツツジやホツツジ、クロソヨゴ、ダイセンキャラボクなどが生息し、一般の亜高山帯に見られる針葉樹林が見られない。中でもダイセンキャラボクは、風雪により地面に這うように密生して生育し、一面の美しいキャラボク純林を見ることができる。大山で発見され、新植物と学会で発表されたものはダイセンキャラボクをはじめとして、ダイセンヤナギ、ダイセンオトギリ、ダイセンクワガタなど数多く、大山の変化に富んだ環境が多様で特異な自然景観を生んでいることが分かる。地形の変化に富み、植物の分布が豊かであることは、多くの動物にとっても都合のより生育環境となっており、例えば大山中腹のブナ林には、日本固有種のヤマネが生息し、ダイセンキャラボクの木陰はルリビタキが巣を作って繁殖するのが見られる。食物連鎖の頂点に位置するイヌワシも確認されており、生態系の豊かさを示している。

【キーワード】 複雑な地形、大山信仰、山麓に展開する遺跡群、生物多様性

【課題と展望】

大山は、鳥取県の象徴的な存在として大切にされ、遺跡や近代の歴史的集落、自然景観など多岐に渡り、他分野で保存活用されている。文化財部局においては、平成27年に大山寺を核として発展した大山信仰、信仰から生まれた大山牛馬市を軸としたストーリーが日本遺産に認定され、令和元年度には大山寺旧境内が有する価値や課題を明らかにし、貴重な文化遺産として後世に伝えていくための保存管理・活用等の方針を定める史跡大山寺旧境内保存活用計画が策定された。保存活用計画では、遺跡や歴史的建造物の保存に対する調査や整備の課題や、活用面でのガイダンス施設不足やサイン計画の問題など様々な課題があげられており、これらの課題に取り組むことで、優れた文化財群を後世へ保存し、地域資源としても活用を行っていくことが望まれる。

【主要な構成要素】

<p>大山寺旧境内（大山町、国・史跡）</p>	<p>妻木晩田遺跡（淀江町及び大山町、国・史跡）</p>	<p>豊成叶林遺跡出土旧石器時代遺物一括（大山町、県・保護文）</p>
		
<p>大山中腹に所在する天台宗の山林寺院</p>	<p>弥生時代後半（1～3世紀）に営まれた大規模な集落跡</p>	<p>約3万年前の後期旧石器時代の遺跡</p>
<p>大山町所子伝統的建造物群保存地区（大山町、国・重伝建）</p>	<p>大山のダイセンキヤラボク純林（大山町、国・特天記）</p>	<p>イヌワシ（大山町、国・天記）</p>
		
<p>大山への参詣道である坊領道に沿って残る伝統的な建築群</p>	<p>大山の9合目から頂上間に自生する約3.5haの日本最大のキヤラボク群落</p>	<p>日本国内に生息する陸鳥中、最大最強の猛禽</p>
<p>ヤマネ（大山町、国・天記）</p>	<p>大山のもひとり神事（大山町、県・無民）</p>	<p>高田家住宅（米子市、県・保護文）</p>
		
<p>日本固有種で、体長8cm前後の樹上生活性の小獣</p>	<p>毎年7月14日15日に行われる大山の原初信仰</p>	<p>日野川流域の大地主として代々庄屋を勤めた旧家の住宅（江戸中期以降の建築）</p>

【構成文化財一覧】

名称	地域	指定・分類等	内容
木造阿弥陀如来及び両脇侍像	大山町	国・重文	天承元年（1131）3月から6月にかけて仏師良円により作られた阿弥陀堂の本尊として祀られる丈六の阿弥陀三尊像
銅造観世音菩薩立像 [一軀]	大山町	国・重文	大山寺に伝わる銅造観世音菩薩立像
銅造十一面観音立像	大山町	国・重文	大山寺に伝わる奈良時代前期の金銅仏
銅造観世音菩薩立像 [二軀]	大山町	国・重文	大山寺に伝わる銅造観世音菩薩立像3体のうちの2体
鉄製厨子附祈願文鏤刻ノ鉄板三枚、鉄造地藏菩薩ノ頭部	大山町	国・重文	大山寺に伝わる鉄製の厨子
大山寺阿弥陀堂	大山町	国・重文	寺伝に貞観7年（865）慈覚大師の創建といわれる阿弥陀堂
門脇家住宅 主屋 水車小屋 米蔵 新蔵	大山町	国・重文	江戸時代に大庄屋を勤めた旧家。主屋は明和6年（1769）の建築。
大神山神社奥宮本殿・幣殿・拝殿、末社下山神社本殿・幣殿・拝殿	大山町	国・重文	平安時代後期の創建と伝えられるが、その後火災焼失、移転を繰り返し、文化2年（1805）に現在地で復興。現在の建物は江戸時代後期の建築。
木造阿弥陀如来坐像	大山町	県・保護文	平安後期の作と推定される仏像
木造不動明王坐像	大山町	県・保護文	鎌倉時代以前にさかのぼる半丈六以上の不動明王像
大山寺文書	大山町	県・保護文	伯耆国及びその周辺の広い地域の歴史に大きな影響を与えた大規模寺院に伝来した中世文書
梵鐘	大山町	県・保護文	平安時代後期の様相を伝える鎌倉時代の梵鐘
鉄燭台 天文十九年、同二十二年銘	大山町	県・保護文	大山寺に伝わる天文19年（1550年）、同22年（1553年）作の鉄製燭台
大神山神社奥宮神門	大山町	県・保護文	西楽院（大山寺本坊）の表門だったが、大山寺号廃絶による西楽院四散の際、大神山神社に引き渡され、現在地に移転。
南門脇家住宅	大山町	県・保護文	門脇家から安永10（1781）年頃に分家。主屋は江戸時代後期の建築と推定。
吉持家住宅	南部町	県・保護文	戦国武将にその端を発する当家の家系は、近世初期に帰農し、10代にわたり大山山麓の開墾に功績を重ねてきたことで知られる旧家。主屋は文化年間（1804～1818）建築。
高田26号墳	大山町	県・史跡	阿弥陀川右岸の丘陵西端に立地する古墳時代後期の古墳。
岩屋平ル古墳	大山町	県・史跡	甲川中流右岸の丘陵上に所在する直径約18mの古墳時代後期の円墳。
赤松の荒神祭	大山町	県・無民	閏年の3月第1日曜（かつては閏年の2月2日）に、藁で作った大蛇を荒神に納する神事
宮内の燉打ち神事	大山町	県・無民	閏年の旧暦9月15日から16日にかけての深夜に行われる大山町宮内に鎮座する高杉神社に伝承される神事

(2) 砂を利す人々の営み —砂と湖が形成した鳥取の景観と文化—

【ストーリー】

縄文時代に海面は上昇し、鳥取県内の日本海に面する平野は内湾となった(縄文海進)。こうして形成された潟湖やその痕跡が多数残されている。例えば現在の鳥取市域は、海面上昇が落ち着くころになると湾口部に多量の砂が堆積し、それが鳥取砂丘となったとされ、西側には内海としての湖山池がある。同様に県中部の北条砂丘や東郷湖、西部の妻木晩田遺跡から望む淀江平野の風景、弓浜半島(砂州)と中海という景観がその痕跡である。

その潟湖や砂丘・砂州を利用することで、人々の暮らしがあり、潟湖周辺は政治・経済の要衝であり、そこには遺跡が残るとともに、今日にも特徴ある自然と文化を継承している。

湖山池沿岸の桂見遺跡からは縄文人の潟湖での航行を想像できる丸木舟、また青谷平野(鳥取市青谷町)にあった潟湖周辺にあたる青谷上寺地遺跡からは「サメを描いた木製品」が出土しており、淀江平野(米子市淀江町)にあった潟湖周辺には妻木晩田遺跡をはじめ縄文時代からの遺跡があることから、縄文から弥生時代には内湾、潟湖を海産物採集の場または港として利用してきたことが理解できる。

古墳時代～古代・中世においても潟湖は港であり、前方後円墳が集中し、城下町が形成される場となる。湖山池周辺には布勢古墳などや天神山城を中心とした城下町、東郷池周辺には北山古墳や橋津古墳群や、「東郷荘下地中分絵図」が示す荘園形成が見られる。

近世になると砂丘及び砂州が開墾され利用されるようになる。綿花栽培では地下水を綿井戸と呼ばれる施設から汲み上げ、綿を利用した弓浜緋や倉吉緋なども製作されるようになる。また、綿だけではなく、近代の灌漑設備の充実によりラッキョウやナガイモ、タバコ、スイカ栽培なども広がりを見せる。ブドウは近世末期には甲斐の国(山梨県)から鳥取に苗が持ち込まれ栽培がはじまり、近代にはそれを原料としたワインの醸造が始まった。砂畑は今日も人々の暮らしを支え続けている。

また湖山池、東郷池などは今日もシジミ漁が盛んであり、中海も魚介類の恵を取り戻しつつある。

一方鳥取砂丘は、県外の人たちが鳥取県といえば砂丘をまず連想するほど知れ渡っており、重要な観光資源となるに至っている。

鳥取県沿岸部は、縄文時代から現在にかけて人々が砂と湖が形成する景観の中に暮らし、その中で特徴ある産業、郷土文化を継承している。

【キーワード】 縄文海進、潟湖、砂丘・砂州、砂畑の栽培作物

【課題と展望】

潟湖と砂丘など自然地形とそれを利用しての生産、つまり生活文化の結びつきについて、平易な説明が必要である。それについてより深く知りたい方々に対し、ガイドンス機能を持つ施設として、山陰海岸国立公園鳥取砂丘ビジターセンター、青谷上寺地遺跡展示館、むきばんだ史跡公園があるが、それらをつなぐコンテンツが望まれる。また、湖山池、東郷池、中海周辺が、より人々が集う魅力ある場所として整備されることが望まれる。

砂と湖が形成した一体的な景観と文化に対する理解が進むことによって、砂丘に偏ったイメージから湖山池を含めた広い空間を魅力的に伝えることが可能となる。そしてストーリーが広く理解されることで、砂畑の産物(らっきょう・白ネギ・ブドウ・ナガイモ)、潟湖のシジミなどのブランド力向上促進が期待できる。

【主要な構成要素（東部）】

鳥取砂丘（鳥取市、国・天記）	青谷上寺地遺跡（鳥取市、国・史跡）	石がま漁（鳥取市、県・無民）
		
大きな起伏と「スリバチ」と呼ばれる凹地地形など全国の海岸砂丘に例のない雄大な景観。	青谷平野の潟湖のほとりの低湿地帯に形成した集落遺跡。写真は「サメを描いた土器」。	湖山池で江戸時代前期から行われていたとされる伝統的な漁法。

【構成文化財一覧（東部）】

名称	地域	指定・分類等	内容
白兔神社社叢	鳥取市	国・天記	鳥取砂丘の端にあたり、「因幡の白兔」の伝説で有名な白兔海岸沿いの小丘上にある。
ハマナス自生南限地帯	鳥取市	国・天記	日本海側では本県が、自生の南限となっている。
湖山池	鳥取市	天然記念物	沿岸部の湖山砂丘（古砂丘、新砂丘）の発達により形成された潟湖。
多鯰ヶ池	鳥取市	天然記念物	砂丘の砂がせき止めて形成された特殊な潟湖。
青島	鳥取市	天然記念物	湖山池に浮かぶ。鳥取で初めて縄文土器が見つかった。
鳥取民藝美術館別館湖山池阿弥陀堂	鳥取市	国・登録建造物	新作民藝運動を推進した吉田璋也が、鳥取民藝美術館別館として湖山池北岸に建設。
山王日吉神社	鳥取市	国・登録建造物	16世紀前半に湖山池に天神山城の鎮護神として、比叡山坂本の日吉大社から文霊を勧進。
桂見遺跡出土縄文時代遺物一括 一丸木舟、一櫂	鳥取市	県・保護文	湖山池の南東岸桂見遺跡からみつかった縄文時代後期の丸木舟と櫂。海上を自由に航行していた縄文人の姿を想像できる。
栗谷縄文遺物	鳥取市	県・保護文	縄文時代の後期を中心とする土器、石器、木製品などの多量多様な遺物。
山王日吉神社宝篋印塔	鳥取市	市・有形	南北朝時代前期から中期にかけて制作。
天神山城跡	鳥取市	県・史跡	湖山池に接し水上交通の要衝に位置する。
布勢古墳	鳥取市	国・史跡	湖山池（潟）は交流拠点として繁栄し、周辺に大型古墳群が築かれた。その代表格。
身干山遺跡・出土遺物	鳥取市	埋文	中世末から近世初頭の造砂活動により埋没した遺跡。現地付近に出土した石造物がある。
砂丘らっきょう栽培用具	鳥取市	有形民俗	砂丘を利用した農業を示す。

【主要な構成要素（中部）】

<p>伯耆長瀬高浜遺跡出土埴輪（湯梨浜町、国・重文）</p>	<p>東郷荘下地中分絵図</p>	<p>綿井戸</p>
		
<p>天神川右岸の砂丘上に位置する長瀬高浜遺跡から出土した。</p>	<p>東郷湖（潟湖）を中心とした中世荘園姿を示す。</p>	<p>砂丘（砂畑）での綿等栽培に欠かせない施設。</p>

【構成文化財一覧（中部）】

名称	地域	指定・分類等	内容
橋津古墳群	湯梨浜町	国・史跡	日本海と東郷湖（潟湖）の間の丘陵上にある。潟湖と古代政治の関係を示す。
北山古墳	湯梨浜町	国・史跡	東郷湖（潟湖）を望む丘陵上にある。
長瀬高浜遺跡玉作関係資料一括	湯梨浜町	県・有形	長瀬高浜遺跡は天神川右岸の砂丘地に立地する。
橋津の藩倉、古御倉、片山倉、附古御蔵天保十四年建替棟札1枚、三十間北蔵	湯梨浜町	県・保護文	東郷湖（潟湖）から流れ出た橋津川の河口に位置する。鳥取藩最大の藩倉。
北条ワイン製造用具	北栄町	有形民俗	明治からの北条砂丘におけるブドウ栽培とワイン生産を示す。
浜井戸（イシキ）	北栄町等	史跡	上記
地頭松（ジトマツ）	北栄町	天然記念物	地頭（土豪）が防風・防砂対策として植林したという防風林。

【主要な構成要素（西部）】

<p>絵画土器 角田遺跡出土（米子市、県・保護文）</p>	<p>妻木晩田遺跡（淀江町及び大山町、国・史跡）</p>	<p>弓浜緋（米子市・境港市、県・無形）</p>
		
<p>弥生時代中ごろの壺。壺の頸部には、線刻によって六重の同心円（太陽か）、舟と舟を漕ぐ人物、建物2棟などが描かれている。</p>	<p>遺跡から望める淀江平野は、かつて潟湖であり天然の港であった。</p>	<p>砂州である弓浜半島を中心に栽培された伯州綿を原材料として発展。</p>

【構成文化財一覧（西部）】

名称	地域	指定・分類等	内容
上淀廃寺跡出土壁画・塑像 附 瓦・土器類	米子市	県・保護文	山陰地方における仏教文化の導入と定着を示す資料
弓浜半島と中海	米子市・境港市	天然記念物	日本でも有数の砂州によって塞がれてできた湖（潟湖）。
淀江傘製造技術	米子市	市・無形	淀江の砂浜利用によって大量生産された。
芋代官碑	米子市・境港市	市・有形民俗	砂州にて栽培が可能なサツマイモの恩恵をもたらした石見国大森銀山領の代官井戸平左衛門を顕彰。
潮止め松	米子市	市・天然	塩害を防ぐ。
伯州綿栽培用具	米子市・日吉津村	有形民俗	中海などの藻葉を肥料とした砂畑における綿栽培。

(3) とっとり弥生の王国－妻木晩田遺跡と青谷上寺地遺跡－

【ストーリー】

本格的な水田稲作が始まった弥生時代。海岸近くまで丘陵が迫る鳥取県の沿岸部は、水田を開く平野に近接して、食糧となる海の幸・山の幸や木器の原材料となる木材などの資源が豊富に存在する絶好の環境であった。また、文明の先進地である中国大陸・朝鮮半島に向かい合うという地理的特性に加え、天然の良港となる潟湖（ラグーン）が多数存在したことにより日本海航路の重要な拠点となり、鉄器や玉の素材をはじめとする多くの貴重品を獲得することができた。この恵まれた大地に住み着いた人々は、稲作や狩猟採集の他、玉や木器等の生産活動を通じて列島内外の各地と交流しながら、銅鐸や銅剣等青銅器のマツリによって結びついた集団を成長させた。集団を率いる首長層の存在感が高まるにつれ、地域の連帯を示すシンボルは青銅祭器から四隅突出型墳丘墓とそこでの葬送儀礼へと変化した。王墓はさらに方形墳へと形を変え、古墳時代へと伝統を伝えていく。

こうした弥生時代の生活や交流の実態を具体的に示すのが、我が国の弥生時代研究の最前線に位置し、弥生時代像を刷新しつつある妻木晩田・青谷上寺地の二大遺跡である。

妻木晩田遺跡は丘陵上に展開する我が国最大級の集落遺跡であり、単位ごとにまとまった竪穴住居・掘立柱建物が尾根ごとに異なる消長をたどり、やがて人々が丘陵上を去るまでの歴史を、墳丘墓の立地の変化と合わせてたどることができる稀有な遺跡である。さらに、焼失住居の分析に基づく竪穴住居の上屋構造の復元や、植生を中心とした古環境復原についても多くの知見をもたらしている。

当時存在した潟湖のほりに立地する青谷上寺地遺跡は、多種多様な出土遺物が良好な保存状態で遺されていたことから「地下の弥生博物館」の異名を持つ。農耕に加え活発な漁撈活動が行われていた他、大陸・半島を含む各地との交流を示す貴重品が豊富であることから、日本海交易の拠点として栄えた港湾集落であったことが窺える。遺跡を特徴づけるのは中期段階の玉作、後期段階の木器生産である。特に精巧な木製容器は専門的な工人集団による交易用ブランド品であった可能性が高く、「弥生時代集落＝農村」という従来のイメージを覆し、弥生時代の社会的分業が高度に進んでいたことを示している。

これら二つの遺跡の他にも、青木遺跡・福市遺跡といった大規模集落、新井三嶋谷・西桂見・阿弥大寺・梅田萱峯遺跡の墳丘墓、因幡・東伯耆各遺跡の銅鐸、長瀬高浜遺跡・西高江遺跡の玉作りなど、山陰地方の弥生文化の特色をよく示す意向・遺物に恵まれた鳥取県は、まさに「弥生の王国」を称するにふさわしい。

【キーワード】 交易 潟湖（ラグーン） 四隅突出型墳丘墓 青銅器 鉄器 玉作

【課題と展望】

「とっとり弥生の王国」は、今や県の政策のなかでも重要な位置を占めるに至ったブランディング戦略であり、「稼げる文化財」としてのポテンシャルは県内でも最有望である。未指定の遺跡・遺物の適切な保護を図るとともに、これらの文化財を繋いで「弥生の王国」の価値と魅力をわかりやすく発信するためのストーリーを構築し、関連グッズや観光商品の開発を含めたブランドの磨き上げが求められる。

大きな課題となるのは遺跡の「魅せ方」である。構成文化財のうち集落遺跡については、埋め戻したままの状態では遺跡の価値や魅力を伝えることはかなり困難である。活用の柱となる青谷上寺地遺跡の整備は速やかに進める必要があるが、すべての集落遺跡が大規模な復元工事を伴う整備を行えるわけではなく、価値をどのように顕在化させるかの工夫が問われる。

【主要な構成要素（東部）】

<p>青谷上寺地遺跡（鳥取市、国・史跡）</p>	<p>新井三嶋谷墳丘墓（岩美町、県・史跡）</p>	<p>西桂見墳丘墓出土品（鳥取市、考古資料）</p>
		
<p>潟湖のほとりに立地した「港湾集落」。多種多様な遺物が良好な保存状態で残され「地下の弥生博物館」と呼ばれる。玉作りや精製木器の生産を行い、日本海航路の交易拠点として繁栄した。</p>	<p>後期初頭に築造された、葺石を持つ2基の方形の墳丘墓。1号墓では3基、2号墓では2基の埋葬施設が確認されている。1号墓（26×18m）は当該期の墳丘墓としては国内有数の規模。</p>	<p>因幡最大の墳丘墓から出土した大型土器群。集落出土土器には類例のない器台や脚付壺から構成され、葬送儀礼用に特化した土器群と考えられる。</p>

【構成文化財一覧（東部）】

名称	地域	指定・分類等	内容
青谷上寺地遺跡出土品	鳥取市	国・重文	弥生の匠の技を伝える木器等
青谷上寺地遺跡出土「弥生人の脳」、人骨資料	鳥取市	考古資料	DNA 分析進行中。弥生時代後期のまとまった人骨資料としては我が国唯一
松原1号墓出土品	鳥取市	考古資料	1200点に及ぶガラス製玉類
西大路土居遺跡出土銅剣	鳥取市	考古資料	因幡唯一の銅剣
越路銅鐸	鳥取市	県・保護文	外縁鈕式の流水文銅鐸
高住銅鐸	鳥取市	考古資料	扁平鈕式の流水文銅鐸
下坂銅鐸	八頭町	考古資料	加茂岩倉遺跡に兄弟銅鐸あり

【主要な構成要素（中部）】

<p>阿弥大寺墳丘墓群（倉吉市、国・史跡）</p>	<p>小田銅鐸〔袈裟襷文銅鐸〕（倉吉市、県・保護文）</p>	<p>長瀬高浜遺跡玉作関連遺物（湯梨浜町、県・保護文）</p>
		
<p>後期に築かれた、発達した突出部と貼石を持つ3基の四隅突出型墳丘墓。出土した土器と合わせて、当該期の首長墓と葬送儀礼のあり方をよく示す遺跡。</p>	<p>昭和22年、墓地造成中に発見された2個の袈裟襷文銅鐸。1号鐸は外縁付鈕、2号鐸は扁平鈕を持つ。県内唯一の複数埋納例であることに加え、出土地点を特定できる点でも貴重。</p>	<p>弥生時代前期の竪穴住居跡から出土した、我が国最古級の玉作関連遺物。打割によって素材となる剥片を作出する「長瀬高浜技法」が用いられている。</p>

【構成文化財一覧（中部）】

名称	地域	指定・分類等	内容
梅田萱峯墳丘墓	琴浦町		移築復元、方形の貼石墳丘墓
阿弥大寺墳丘墓群出土土器一括	倉吉市	県・保護文	墳丘墓の儀礼を示す一群の土器
宮内墳丘墓出土品	湯梨浜町		弥生時代最長の舶載鉄刀、鉄剣
小銅鐸	湯梨浜町	町・有形	全国的にも希少な小型の銅鐸
田越銅剣	琴浦町	町・有形	出雲で作られた銅剣か
久蔵峰出土銅矛	琴浦町		県内唯一の銅矛
西高江遺跡出土玉作関連遺物	北栄町		水晶の玉作り資料

【主要な構成要素（西部）】

妻木晩田遺跡（米子市・大山町、国・史跡）	青木遺跡（米子市、国・史跡）	絵画土器 角田遺跡出土（米子市、県・保護文）
		
標高約 100mの丘陵上に展開する、我が国最大級の弥生時代集落遺跡。400棟以上の竪穴住居跡と30基以上の墳丘墓が確認されており、集落構造とその変遷、当時の植生等を詳しく知ることができる稀有な遺跡。	台地上に展開する弥生時代～奈良時代の大規模な集落遺跡。竪穴住居跡、掘立柱建物跡、古墳等多様な遺構が確認されている。遺跡保存運動の舞台となり、一部が史跡として保存されている。	弥生時代中期の大型の壺の頸部に、線刻によって舟を漕ぐ人物や高層の高床建物、木に吊るされた紡錘形の物体（銅鐸？）が描かれている。当時の精神世界の一端を伝える一級の絵画資料。

【構成文化財一覧（西部）】

名称	地域	指定・分類等	内容
福市遺跡	米子市	国・史跡	保存整備された台地上の大規模集落
徳楽墳丘墓	大山町	町・史跡	終末期の墳丘墓、四隅突出型か
徳楽墳丘墓出土土器	大山町	考古資料	特徴的なスタンプ文で飾られた大型器台
目久美・池ノ内遺跡出土木器	米子市	考古資料	弥生時代の農耕のあり方を伝える農具等

(4) 海の王者たちの奥津城 — 因幡・伯耆の首長墳 —

【ストーリー】

日本史上初めて列島規模の政治的同盟関係が成立し、そのシンボルである前方後円墳が各地に造られた古墳時代。しかしながら、因幡・伯耆の最初期の古墳は、湖山池に臨む桂見2号墳のように、墳形、埋葬施設、土器を用いた葬送儀礼など様々な面に弥生時代の伝統を残した方墳であった。ただし、被葬者が中国鏡を入手していた点は、新しい時代の動きが確実に当地にも及んでいたことを示している。古墳時代前期後半、鳥取平野に本高14号墳、六部山3号墳、古郡家1号墳などの大形前方後円墳が出現する。これらの首長墳は出土した土器や短甲等から畿内王権との結びつきが窺われる一方で、六部山3号墳、古郡家1号墳の円筒埴輪には丹後半島との影響関係が認められる。同じ頃、東伯耆でも東郷湖に面し日本海を見晴らす丘陵上に橋津(馬山)2号墳・4号墳、宮内狐塚古墳、北山1号墳といった大形前方後円墳が連綿と築かれる。時あたかも畿内王権が朝鮮半島への軍事的進出を強めていたこの時期、山陰のみならず丹後半島等日本海沿岸各地に大形前方後円墳が登場している。王権は日本海沿岸の有力者たちと友好関係を取り結ぶことで半島へとつながる日本海航路を確保しようとしたのであろうか。

北山1号墳以後、大形前方後円墳の築造は一時低迷し、首長墳は別所尻古墳・別所5号墳、岡高塚古墳、ハンボ塚古墳、日吉塚古墳等の大形円墳に形を変えるが、中期後半以降再登場する。かつての淀江潟に臨む向山古墳群はこの時期の伯耆最有力の首長墓系譜であり、石馬谷古墳出土と伝わる本州唯一の石馬はこの地に九州地方との交流があったことを物語る。

後期になると、西伯耆や東伯耆に九州地方の影響を受けた横穴式石室が波及するが、あるいは独自の変化を遂げ、あるいは出雲からの影響を受けてその形態は多様化し、明瞭な地域色を発現するに至る。

このように因幡・伯耆の古墳時代史をたどると、大規模な墳丘をもつ有力古墳の多くが湖山池、東郷池といった潟湖や日本海に臨んで築かれていることに気づく。これらは港となる潟湖を勢力下に置き、日本海航路を差配した有力者の威容を示す墓といえよう。一方で、内陸や山間地に位置する古墳にも、国分寺古墳・普段寺古墳群の三角縁神獣鏡や倭文6号墳の鉄鉾、福本70号墳の銅匙等、近畿の王権や大陸・半島との結びつきをしめす優品がもたらされている。これらの古墳の被葬者は、山陰から近畿中枢に至る陸路を扼した有力者であったのだろうか。

海で外界とつながった勢力と、海と王権とを繋いだ勢力。彼ら・彼女らが遺した古墳は、まさに「海の王者たちの奥津城」であった。

【キーワード】 前方後円墳 方墳 日本海航路 横穴式石室 青銅鏡

【課題と展望】

古墳は盛土や石室等を伴って地表に構築された遺構であるため、集落遺跡等とは異なり、復元整備を行わずとも現状の保存状態のままで往時に近い姿を知ることができるという特性がある。こうした特性から比較的「身近な文化財(遺跡)」として親しまれ、地域のシンボルとして愛着を持たれている古墳も多いことは、活用の面では有利である。しかしながら、歴史遺産や観光素材として磨き上げるためには、墳丘の草刈りや伐木等の維持管理、古墳へのアクセス道の整備等も必要となる。特に維持管理については、公有地・民有地を問わず、そのコストをどのように負担するかが課題となる。また、これらの首長墳のなかには、詳細な墳丘測量図がなく築造時期を明らかにできないものも少なくない。今後はこれらの古墳の調査研究を進めて学術的価値を確かなものとし、指定等の保護策を講じることが求められる。

古墳からの出土遺物については、特に埋蔵文化財保護行政の整備期以前に出土した資料について、県外に分散して所蔵されているものや、個人の所蔵で通常非公開のものがある点は活用の支障となる。「里帰り展」や限定公開の形で少しでも県民にふれる機会を設けられるよう、所蔵者の理解を得る努力が求められる。また、金属製品等には展示に耐えない脆弱なものも多く、補助事業を活用して保存処理や修復を計画的に進めることも必要である。

【主要な構成要素（東部）】

<p>六部山3号墳（鳥取市、史跡）</p>	<p>古郡家1号墳出土品一括（鳥取市、県・保護文）</p>	<p>福本70号墳出土品（八頭町、県・保護文）</p>
		
<p>墳長約 65mの前期後半の前方後円墳。前方部の石櫃状遺構から倭鏡が、墳丘からは円筒埴輪が出土している。埴輪は「因幡型」と呼ばれ、丹後半島との影響関係が認められる。</p>	<p>墳長約 92m、前期古墳としては因幡最大級の前方後円墳である古郡家1号墳から出土。最古の帯金式甲冑と評価される長方板革綴短甲や、国内に2例のみの突起付重圏文、因幡型円筒埴輪など、畿内や丹後半島との交流を示す豊富な内容。</p>	<p>7世紀代の多角形墳である福本70号墳の横穴式石室から出土。銅製匙や双竜環頭大刀、半島との交流を示す銅製匙等の優品、渦巻文杏葉等の馬具、鉄製品等豊富な内容を示す。特に渦巻文杏葉や銅製匙には大陸・半島との関係が窺える。</p>

【構成文化財一覧（東部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
布勢古墳	鳥取市	国・史跡	湖山池を臨む後期前方後円墳
梶山古墳	鳥取市	国・史跡	彩色壁画を持つ変形八角形墳
大熊段1号墳	鳥取市	市・史跡	湖山池を臨む前方後円墳
嶽古墳	鳥取市	市・史跡	山間の交通路に位置する前方後円墳
西山1号墳	鳥取市	市・史跡	日本海を望む前方後方墳
沢見塚古墳	鳥取市	市・史跡	瀉湖（水尻池）に臨む前方後円墳
八束水7号墳	鳥取市	市・史跡	日本海を望む前方後方墳
古郡家1号墳	鳥取市	史跡	畿内や丹後半島との交流を示す豊富な出土品
本高14号墳	鳥取市	史跡	山陰地方最古？の前方後円墳
梶間1号墳	鳥取市	史跡	湖山池に臨む因幡最大の前方後円墳
琵琶隈1号墳	鳥取市	史跡	湖山池に臨む前方後円墳
寺山古墳	八頭町	町・史跡	横穴式石室持つ前方後円墳
倭文6号墳出土遺物	鳥取市	県・保護文	半島との交流を示す多角形袋部の鉄銚等
桂見2号墳出土品	鳥取市	考古資料	湖山池に臨む最初の首長墳。新時代を象徴する中国鏡と土器を用いた伝統的な儀礼

【主要な構成要素（中部）】

橋津古墳群（湯梨浜町、国・史跡）	北山古墳（湯梨浜町、国・史跡）	別所尻古墳（琴浦町、町・史跡）
		
東郷池と日本海を扼する東伯耆最有力の首長墓群。前期後半の大型前方後円墳である橋津4号墳はじめ5基の前方後円墳を含む。橋津4号墳からは三角縁神獣鏡等豊富な副葬品が出土。	東郷池に臨む丘陵上に立地。墳長約110m、中期初頭に築かれた山陰地方最大の前方後円墳。後円部の竪穴式石槨と箱式石棺から中国鏡や短甲、玉類等が出土。	日本海を望む中～後期の大型円墳。前方後方墳である笠取塚古墳を盟主とする別所古墳群の一角を占め、海上交通を勢力基盤とした首長墓系譜の存在を示す。

【構成文化財一覧（中部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
国分寺古墳	倉吉市	市・史跡	豊富な副葬品が知られる前期後半の首長墳
上神大将塚古墳	倉吉市	市・史跡	豊富な副葬品が知られる前期後半の円墳
三明寺古墳	倉吉市	国・史跡	山陰最大級の横穴式石室
大宮古墳	倉吉市	市・史跡	九州地方の影響持つ横穴式石室
八橋狐塚古墳	琴浦町	町・史跡	日本海を望む後期の前方後円墳
向山6号墳	倉吉市	史跡	中部地震で被災した横穴式石室を持つ前方後円墳
宮内狐塚古墳	湯梨浜町	史跡	東郷池に臨む大形前方後円墳
長瀬高浜1号墳	湯梨浜町	史跡	移築された円墳
北条大将塚古墳	北栄町	史跡	県内有数の大形円墳
伯耆国分寺古墳出土品	倉吉市	国・重文	三角縁神獣鏡含む前期の優品
長瀬高浜遺跡出土埴輪	湯梨浜町	国・重文	砂の下から現れた謎の埴輪群

【主要な構成要素（西部）】

向山古墳群（米子市、国・史跡）	石馬（米子市、国・重文）	三崎殿山古墳（南部町、町・史跡）
		
<p>旧淀江潟に臨む丘陵上に築造された、中～後期の西伯耆の最有力首長墓群。群中最大の前方後円墳である4号墳、冠や装飾大刀が出土した長者ヶ平古墳、切石造の横穴式石室を持つ岩屋古墳を含む。</p>	<p>石馬谷古墳出土と考えられる本州唯一の「石の埴輪」。頭部・胴部には馬装が表現されており、赤色顔料が残る。古墳時代後期に九州との交流関係があったことを示す。</p>	<p>丘陵上にそびえる西伯耆最大の前方後円墳。埋葬施設や埴輪の有無等は不明であり、正確な墳丘規模や築造時期を含め今後の調査に俟つところが大きい。</p>

【構成文化財一覧（西部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
岡岩屋堂古墳	大山町	町・史跡	横穴式石室持つ前方後円墳
石州府1号墳	米子市	市・史跡	横穴式石室を持つ大形円墳
後塚山古墳	南部町	町・史跡	人物埴輪が出土した前方後円墳
普段寺古墳群	南部町	町・史跡	三角縁神獣鏡が出土した前方後方墳含む
岸本7号墳	伯耆町	町・史跡	大形円墳
普段寺1号墳出土三角縁神獣鏡	鳥取市	国・重文	畿内玉権との結びつきを示す鏡。
ハンボ塚古墳出土形象埴輪	大山町	町・有形	素朴な造形の人物・動物埴輪
後塚山古墳出土人物埴輪	南部町	考古資料	ユーモラスな表情の人物埴輪
長者ヶ平古墳出土遺物	米子市	考古資料	金銅製透彫冠・三累環頭把頭1・金銅製三輪玉5・銅鈴6（東京大学保管）等の優品

(5) 白鳳寺院から大山・三徳山 ―知られざる鳥取の仏教文化―

【ストーリー】

お寺やお墓にお参りに行ったり、道際でお地蔵さまを見かけたり、仏教は我々の生活にとって身近な存在である。その仏教が県内に入ってくるのは、日本に仏教が公式に伝わった6世紀中頃から1世紀ほど経った後のことである。現在に至るまで変化しつつも連綿と続いており、寺院、墓、仏像、仏画、仏具、経塚など、関連する文化財が各地に数多く残されている。

県内に仏教寺院が建立されるようになるのは7世紀中頃のこと、その後奈良時代にかけて、推定を含めると22ヶ寺が知られる。この時期の寺院（以下、古代寺院と呼ぶ。）の多くは、古墳時代から続く地域の豪族たちによって建立されたと考えられ、菖蒲廃寺（鳥取市）の付近には山ヶ鼻古墳、土師百井廃寺（八頭町）の付近には福本古墳群、大御堂廃寺（倉吉市）の付近には三明寺古墳、上淀廃寺（米子市）の付近には向山古墳群といった具合に、古代寺院の付近には6世紀後半から7世紀前半にかけての古墳群が認められることが多い。

古代寺院の幾つかでは発掘調査が行われており、金堂や塔などの遺構のほか、瓦や土器、金堂を彩った壁画、そこに安置されていた仏像の一部といった遺物が出土している。上淀廃寺では、法隆寺金堂の壁画と並び国内最古級の壁画が出土し、斎尾廃寺（琴浦町）、上淀廃寺、大御堂廃寺などでは、如来像や菩薩像などの塑像が見つかっている。このほか仏教関連の文化財は、大山寺（大山町）の銅造十一面観音立像、銅造観音菩薩立像のように、寺院に伝えられてきたものもある。それらを合わせると、当時の信仰の在り方や、仏教を信仰した人々の見た景色を思い浮かべることができる。

古代から中世にかけては、仏教と山岳信仰が結びつき山林に寺院が造られるようになる。これらは中世までに廃絶したものもあれば、現在まで続くものもある。このような山林寺院の幾つかは広大な勢力を持ち、そこが一つの起点となり、各地で仏教文化が展開したと考えられる。こうした山林寺院の代表例としては、大山寺や三佛寺（三朝町）が挙げられる。ともに近年、認定を受けた日本遺産の構成要素で、注目を集めている。大山寺は大山の中腹に築かれた寺院で、地蔵信仰で知られ、中国地方に広く信仰を集めた。山中には多くの僧房跡が残っているほか、阿弥陀堂や木造阿弥陀如来坐像及び両脇侍、銅像観世音菩薩立像などが伝わる。三佛寺は三徳山に境内を持つ寺院であり、修験道の場所として知られる。ここには県内に唯一ある国宝の投入堂を始め、文殊堂、地蔵堂、納経堂のほか、木造蔵王権現立像や十一面観音立像など多くの文化財が残る。

この他、古代から続く寺院には、豊乗寺（智頭町）や大日寺（倉吉市）がある。豊乗寺には大師堂や山門、絹本着色普賢菩薩像、絹本着色楊柳観音像をはじめ、多くの文化財が伝わる。大日寺は、かつて上院・中院・安養院を中心に大伽藍が並んだといわれ、丘陵帯にはその痕跡が残る。木造阿弥陀如来坐像や木造十一面観音菩薩立像、木造千手観音菩薩立像など、その一部が大日寺や東高尾観音寺（北栄町）などに伝わる。また、この丘陵では文久3年（1071）の銘のある瓦経が出土したほか、鎌倉時代と考えられる独特な形状の「大日寺様式」五輪塔が3ヶ所に150基ほど立ち並ぶ。なお、この様式の五輪塔は大日寺から丘陵を越えてすぐにある転法輪寺（琴浦町）、さらには大山町でも認められる。

【キーワード】 古代寺院、山林寺院、古代からの継承

【課題と展望】

近年、三徳山や大山寺が日本遺産の構成要素となったこともあり、県内の有名な寺院については、国内外問わず多くの観光客が訪れるようになっている。

一方で、地域住民や県民、観光客への情報発信や美術工芸品の修理・対応が十分にできない場合がある。さらに、人口の減少・高齢化などにより、管理が難しくなっている文化財が認められ、指定・未指定問わず、存続の危機にある。このような課題に対応するためには、専門知識を有する人材の確保や調査研究、新たな魅力の創出などによる地域の活性化、さらに地域との担い手の育成、必要経費の確保などが必要である。

【主要な構成要素】

普賢菩薩像（智頭町、国宝）	伯耆一宮経塚出土品（湯梨浜町、国宝）	三仏寺奥院 [投入堂]（三朝町、国宝）
		
<p>截金による精巧な文様を光背、着衣、蓮台に施し、宝冠や腕釧、瓔珞に金箔や銀箔をふんだんに使い、五重の蓮華座に群青、緑青、朱色を使用するなど絢爛豪華な作品。制作年代は平安時代後期（12世紀）。現在、東京国立博物館に寄託。</p>	<p>大正四年（1915）に銅経筒、金銅仏、銅鏡、檜扇、短刀、刀子、玉類、銅銭、漆器が出土。銅経筒の表面には、制作者や作成年代（康和五年（1103））、末法思想に基づき埋納されたことについて記されている。現在、東京国立博物館に寄託。</p>	<p>山岳仏教の代表的な建造物。慶雲三年（706）に役行者小角が山中の岩窟に法力で投げ入れて建立したとの伝説を持つ。桁行2間、梁間1間の切妻檜皮葺の木造建築で、建築様式や年輪年代から平安時代後に建てられたと考えられる。</p>

【構成文化財一覧（東部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
絹本著色普賢十羅刹女像	県外	国・重文	鎌倉時代後期の作品。普賢菩薩を乗せた白象が四天王の先導で歩く姿を描く。東京国立博物館寄託。
絹本著色楊柳観音像	鳥取市	国・重文	高麗時代中期（13世紀）の作品。流麗豊満で全体に人間味を持つ表現が特徴。
絹本著色釈迦十六善神像	鳥取市	県・保護文	鎌倉時代後期の作品。釈迦如来像の周りに文殊菩薩や普賢菩薩、玄奘三蔵などを描く。
絹本著色不動明王像	鳥取市	県・保護文	室町時代の作品。海上の巖の上に立つ不動明王を描く。
絹本著色両界曼荼羅図	鳥取市	県・保護文	鎌倉時代の作品。「金剛界曼荼羅」と「胎蔵界曼荼羅」の2福あり、県下最大。
絹本着色阿弥陀三尊来迎図	鳥取市	県・保護文	南北朝期（14世紀後半）の作品。阿弥陀如来、勢至菩薩、観音菩薩の三尊を描く。
絹本着色五大明王像	鳥取市	県・保護文	鎌倉時代後半（13世紀後半）の作品。不動明王二童子像、降三世明王像、大威徳明王像、軍荼利明王像、金剛夜叉明王像の5幅。
絹本着色愛染明王像	鳥取市	県・保護文	鎌倉時代後半（13世紀）の作品。宝瓶上の蓮華座に坐る愛染明王を描く。

絹本着色三宝荒神像	鳥取市	県・保護文	鎌倉時代（13世紀）の作品か。岩座上に坐る三宝荒神と八体の眷属を描く。
五百羅漢図	倉吉市	県・保護文	江戸時代の作品。倉吉市出身の吉田保水（1719～92年）とその門弟の筆による。100幅が完存。
木造薬師如来及び両脇侍坐像	鳥取市	国・重文	平安時代後期の作品。檜材の一木造。漆箔像。
木造吉祥天立像	鳥取市	国・重文	平安時代後期の作品。桂材の一木造。彩色像。
木造薬師如来坐像	鳥取市	県・保護文	平安時代後期の作品。桧材の一木造。漆箔像か。
木造毘沙門天立像	鳥取市	県・保護文	平安時代後期の作品。杉材の一木造。
木造吉祥天立像	鳥取市	県・保護文	平安時代後期の作品。杉材の一木造。彩色像か。
勢至菩薩立像	鳥取市	県・保護文	平安時代後期の作品。桧材の一木造。
木造薬師如来立像	鳥取市	県・保護文	平安時代後期の作品。一木造。彫眼。
木造薬師如来坐像	鳥取市	県・保護文	平安時代後期の作品。一木造。彫眼。漆箔像か。
木造十一面観音立像	鳥取市	県・保護文	木喰上人の作。ケヤキ材の一木造。背面の墨書から、文化4年（1807）2月の作品と分かる。
木造蔵王権現立像	鳥取市	県・保護文	平安時代後期の作品。桧材の一木造。三徳山三仏寺に客仏としてあった像を明治前半頃、観照院に移したと伝わる。
木造大日如来坐像金剛界胎蔵界	鳥取市	県・保護文	平安時代後期の作品。金剛界の大日如来と胎蔵界の大日如来。寄木造。彫眼。箔像。
木造持国天立像一 木造多聞天立像一	八頭町	国・重文	鎌倉時代末の作品。寄木造の彩色像。持国天に正安3年（1301）辛丑正月25日仏師隆円の銘がある。
木造毘沙門天立像	智頭町	国・重文	平安時代後期の作品。桧材の寄木造。
梵鐘	鳥取市	国・重文	平安時代前期の作と推定。鋳銅製。
梵鐘	鳥取市	県・保護文	紀年銘をもつ梵鐘として県内最古（1301年鋳造）のもの。銘から倉吉の長谷寺の梵鐘だったことがわかる。
銅罽口	鳥取市	県・保護文	「因州法美郡広西郷五日町屋地福寺」とともに明徳4年（1393）6月24日の銘文が陰刻される。
銅罽口 伯州瀧山寺銘	鳥取市	県・保護文	第1面の銘帯右に「伯州瀧山寺金口願主僧慶意敬白」、左に「正平十二年丁酉八月日願主沙弥西信」と陰刻する。正平十二年は1537年。
擬宝珠	鳥取市	県・保護文	関金温泉街の道路工事の際に出土。中に青磁香炉が納められる。青銅製。2個1対同形で、1つに「伯州瀧山寺願主聖舜至徳二年...」の紀年（1385年）銘がある。
宋青磁香炉	鳥取市	県・保護文	関金温泉街の道路工事で出土。擬宝珠の中に納められていた。中国宋代に浙江省龍泉窯で焼成されたもの。
廃阿代寺正平在銘鐘	岩美町	県・保護文	大願主僧行快が、国土泰平、庄内安穩と寺の繁栄を願い、正平15年（1360）11月に「因州巨野郡岩井庄阿代寺」に寄進したと記される。
紙本金字法華経巻第二、 第四	鳥取市	国・重文	日野郡の豪農緒形四郎兵衛の寄進と伝わる。伏見天皇の消息（正和年間）がある料紙を用いた反古経。
新興寺文書	鳥取市	県・保護文	新興寺に関連する中世文書。南北朝動乱期における寺および周辺地域の様相を示す。
理性院等相承血脈次第（紙 背後亀山上皇院宣案）	鳥取市	県・保護文	全5紙からなる軸装卷子。表側に理性院等相承血脈次第、その裏側に計6通の後亀山上皇院宣案が記される。

不動院岩屋堂	若桜町	国・重文	南北朝時代の建立。天正9年（1581）羽柴秀吉の鳥取城攻略の際に兵火をうけ、岩屋堂だけが残ったと伝わる。
摩尼寺仁王門	鳥取市	県・保護文	18世紀後半頃の建築。建築当初の姿をよく留める。
豊乗寺大師堂及び山門	智頭町	県・保護文	大師堂は天明2年（1782）、山門は延享元年（1744）の建築。
新興寺至徳宝篋印塔	八頭町	県・保護文	台座の左側面に「至徳二乙丑」（1385）の銘をもつ。
栴本廃寺跡	鳥取市	国・史跡	白鳳時代創建の古代寺院。多雪地域であるため堂塔は瓦を使用しない礎石建物であったと推測。
岩井廃寺塔跡	岩美町	国・史跡	白鳳期創建の廃寺塔跡。凝灰岩製の心礎が残る。
土師百井廃寺跡	八頭町	国・史跡	白鳳期創建の寺院跡。東に塔、西に金堂を配する法起寺式の伽藍配置をとる。
伊福吉部徳足比売墓跡	鳥取市	国・史跡	青銅製の骨蔵器に徳足比売が文武天皇に仕え、和銅3年（710）に火葬された旨の墓誌銘が陰刻。
藏見3号墳出土鷗尾付陶棺 附出土遺物一括	鳥取市	県・保護文	鷗尾付陶棺として全体像がわかる全国で唯一の例。
新興寺金峯山経塚出土遺物一括	八頭町	県・保護文	平安時代末期から鎌倉時代初頭に築かれた。経塚銅経筒、和鏡、白磁の合子と皿、銅鈴、金銅製金具などが出土。

【構成文化財一覧（中部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
木造阿弥陀如来坐像	倉吉市	国・重文	鎌倉時代の作品材。檜材の寄木造。漆箔像。像内に嘉禄2年（1226）の銘がある。
木造持国天立像一 木造増長天立像一	倉吉市	国・重文	平安時代後期の作品。檜材の一木造。盗難により現在所在不明。
木造地藏菩薩半跏像	倉吉市	国・重文	鎌倉時代の作品。丈六の地藏菩薩半跏像。檜の寄木造。漆箔像。像内に建久3年（1192）の銘がある。
秋葉大権現	倉吉市	県・保護文	木喰上人作。ケヤキ材の一木彫。像の背面には墨書による銘がある。
木造稻荷像	倉吉市	県・保護文	木喰上人作。背面の墨銘から寛政10年（1798）8月初旬、現在の倉吉市八屋に滞在中に作成されたと考えられる。
木造稻荷像	倉吉市	県・保護文	木喰上人の作。
木造日光菩薩立像、月光菩薩立像	倉吉市	県・保護文	平安時代後期の作品。一木造。彫眼。
木造薬師如来立像	倉吉市	県・保護文	平安時代後期の作品。桧又は榧の一木造。彩色像。
木造菩薩形立像	倉吉市	県・保護文	平安時代の作品。針葉樹の一木造。
銅造誕生釈迦仏立像	倉吉市	県・保護文	白鳳期の作品。倉吉市小田の山中で出土したと伝わる。朝鮮半島三国時代の作例と類似。
銅造誕生釈迦仏立像	倉吉市	県・保護文	白鳳期の作品。
伯耆国分寺石仏	倉吉市	県・保護文	平安時代の作品か。安山岩製。
不入岡の石仏	倉吉市	県・保護文	安山岩製。像の両側に「永和元乙卯年（1375）十一月〇日」、「願主道意」の銘文が刻まれる。
石造大日如来坐像	倉吉市	県・保護文	平安時代後期の作品。

弘法大師坐像	湯梨浜町	県・保護文	木喰上人の作品。桜材。
大日如来坐像	湯梨浜町	県・保護文	木喰上人の作品。桜材。智拳印を結んだ金剛界の大日如来。
木造恵比寿像	湯梨浜町	県・保護文	木喰上人の作品。一木丸彫り。
木造大黒天像	湯梨浜町	県・保護文	木喰上人の作品。一木丸彫り。
木造十一面観音立像〔観音堂安置〕	三朝町	国・重文	平安時代後期の作品。檜材の一木造。
木造蔵王権現立像七軀	三朝町	国・重文	平安時代中頃の作品。桧材の一木造。足を持ち上げないものがあるなど、定型化する以前の様相を示す。
木造蔵王権現立像〔奥之院安置〕附紙本墨書仁安三年造立願文一卷	三朝町	国・重文	平安時代の作品。桧材の寄木造。漆箔像。像内の納入品に仁安三年（1168）と記される。
銅造誕生釈迦仏立像	三朝町	県・保護文	平安時代の作品。三仏寺対岸の千軒原から出土したと伝えられる。
木造千手観音立像 木造十一面観音立像	北栄町	国・重文	千手観音立像は平安時代初期の作品であり、檜材の一木造。十一面観音立像は平安時代後期の作品であり、桂材の一木造。
木造十一面観音立像 二 木造地藏菩薩立像 一 木造不動明王立像 一 木造吉祥天立像 一 木造兜跋毘沙門天立像 一 木造四天王立像 三	北栄町	県・保護文 国・重文	平安時代後期の作品。一木造。このほか千手観音立像、十一面観音立像などを合わせて計43体の古仏が伝わる。
木造十一面千手観音立像	北栄町	県・保護文	平安時代後期の作品。一木造。東高尾観音寺にあったものを正徳3年（1713）に瀬戸の庄屋らが現在地に勧請。
木造空也上人像	琴浦町	県・保護文	江戸時代前期の作品。胸板裏面に、「慶安五年（1652）九月吉日 仏師□□奎阿 願主理正坊 南無阿彌陀仏」と銘がある。
木造四天王立像	琴浦町	県・保護文	平安後期の作品。
木造隨身立像	琴浦町	県・保護文	鎌倉時代の作品か。桧材の一木造。彫眼。
木造阿弥陀如来立像	琴浦町	県・保護文	平安から鎌倉時代初期の作品。カヤ材の一木割刳造。彫眼。
梵鐘	倉吉市	県・保護文	作州布施庄長田村の住民が、明徳4年（1393）に祈願のため奉納寄進したと記される。
銅鏡	三朝町	国・重文	白銅製。鸚鵡華文鏡（鸚鵡華綬鏡）。鏡面に精緻な胎蔵界曼荼羅と長徳3年（997）の紀年銘等が毛彫される。
梵鐘	琴浦町	県・保護文	南北朝時代初期の製作。貞和3年（1347）の鐘銘がある。明治初期に船上山から智積寺に降ろされた。
光徳寺文書	琴浦町	県・保護文	光徳寺（琴浦町）に伝来する中世文書。出雲尼子氏の関係史料。
長谷寺本堂及び仁王門	倉吉市	県・保護文	本堂は天正年間の建築。懸造で中世仏堂の典型的な平面構造をとる。仁王門は延宝8年（1680）の建築。
長谷寺本堂内厨子	倉吉市	国・重文	厨子内に本尊十一面観世音菩薩を安置する。大型の禅宗様厨子。天正4年（1576）の銘がある。

三徳山三仏寺建造物群（不動堂、元結掛堂、観音堂、鐘楼堂、十一面観音堂、本堂）	三朝町	県・保護文	鎌倉時代から江戸時代に造られた建物群。行者道の要所に点在し、投入堂などとともに三徳山三仏寺を構成する。
三仏寺納経堂	三朝町	国・重文	鎌倉時代前期の建築。もとは鎮守の小社であったか。
三仏寺地藏堂	三朝町	国・重文	本尊は子守延命地藏菩薩。室町時代末期の建築。平安時代の寝殿造を踏襲した手法を用いたと考えられる。
三仏寺文殊堂	三朝町	国・重文	本尊は文殊菩薩。一方を岩角に寄せた舞台造。内陣須弥壇の扉金具や勾欄宝珠柱の金具に天正8年（1580）と陰刻。
大日寺古墓群	倉吉市	県・保護文	鎌倉から室町時代の石造五輪塔群。国府川に南面する丘陵斜面の3か所に点在。「大日寺式」と呼ばれる。
永昌寺十三重塔	倉吉市	県・保護文	鎌倉から室町時代初期に造られたか。
赤碓塔	琴浦町	県・保護文	鎌倉時代末期に造られたか。
斎尾廃寺跡	琴浦町	国・特別史跡	白鳳時代創建の古代寺院。法隆寺式の伽藍配置をとり、瓦、瓦製鴟尾、埴仏、塑像などが出土。
大原廃寺塔跡	倉吉市	国・史跡	白鳳時代創建の古代寺院。塔心礎が残る。創建時の軒丸瓦と軒平瓦の文様は、「川原寺」の系統を引く。
伯耆国分寺跡	倉吉市	国・史跡	奈良時代創建の伯耆国の国分僧寺跡。寺域は東西約182m、南北約160m。天暦2年(948)焼失。
法華寺畑遺跡	倉吉市	国・史跡	奈良時代創建の伯耆国の国分尼寺跡。1辺150m四方の溝で区画された中央に並列する3棟の東西建物等を確認。
大御堂廃寺跡	倉吉市	国・史跡	7世紀中頃の創建。山陰最大級の寺院跡であり、寺名は「久米寺」と推定される。
石塚廃寺塔跡	倉吉市	県・保護文	奈良時代の廃寺跡。四天王寺式の伽藍配置と推定。
三徳山	三朝町	国・史跡・名勝	平安時代より栄えた修験道の史跡。尾根に納経堂、地藏堂、文殊堂等が並び、山麓に三仏寺本堂等が建つ。
船上山行宮跡	琴浦町	国・史跡	平安時代以来の山岳仏教の聖地で、今も約20の寺坊跡が残る。

【構成文化財一覧（西部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
十一面観音坐像	米子市	県・保護文	室町時代初期の作品。桧材の寄木造。漆箔像。台座裏に「内け仏十二 花まき□共に かず五本 惣かず覚」の銘がある。
木造阿弥陀如来及び両脇侍像	大山町	国・重文	丈六の阿弥陀三尊像。桧材。阿弥陀如来坐像の像内に天承元年（1131）仏師良円の銘がある。
銅造観世音菩薩立像 [一軀]	大山町	国・重文	白鳳期の作品。胸部や衣文の一部に渡金が僅かに残る。
銅造十一面観音立像	大山町	国・重文	白鳳期の作品。文和元年（1352）に出土し、下山神社の御神体としたと伝わる。
銅造観世音菩薩立像 [二軀]	大山町	国・重文	1軀は奈良時代の作品。1軀は北宋代の作品で渡来仏。
木造不動明王坐像	大山町	県・保護文	平安時代の作品か。針葉樹材の一木造。内割りを施す。像内に弘安8年（1285）の銘がある。

木造阿弥陀如来坐像	大山町	県・保護文	平安時代後期の作品。寄木造。彫眼。漆箔像。
鉄造聖観音立像 鉄造十一面観音立像 附 鉄 製光背一面	南部町	県・保護文	鎌倉時代末期の作品か。鑄鉄製。光背に元応 2 年（1320）の銘がある。
木造不動明王立像	日野町	国・重文	平安時代の作品。桧材の寄木造で、彩色像。
木造薬師如来及び両脇侍 像	日野町	国・重文	平安時代の作品。薬師如来の左右に日光菩薩、月光菩薩を配した薬師三尊像。桧材の寄木造。漆箔像。
木造毘沙門天立像	日野町	国・重文	平安時代の作品。檜材の寄木造。彩色像。
十一面観音立像	日南町	県・保護文	平安時代後期の作品。一木造。彫眼。
大山寺文書	大山町	県・保護文	伯耆国及びその周辺の広い地域の歴史に大きな影響を与えた大山寺に伝来した文書。
瑞仙寺文書	米子市	県・保護文	瑞仙寺に伝来する中世文書。伯耆国の領域支配を担った人物からの安堵状・寄進状・禁制。
大安寺文書	南部町	県・保護文	大安寺の伝来文書。中世の激しい動乱を生き抜いた伯耆国内寺院の実態を示す。
常福寺経蔵及び山門附棟 札扁額	日野町	県・保護文	18 世紀前期の建築か。
鉄製厨子附祈願文鏤刻ノ鉄板 三枚、鉄造地藏菩薩ノ頭部	大山町	国・重文	鉄板に承安元年（1171）大山寺が火災に遭い、翌年紀成盛が地藏尊と厨子を鑄造し、宝殿を建立寄進したとある。
梵鐘	大山町	県・保護文	平安時代後期の様相を伝える鎌倉時代の梵鐘。「阿弥陀川河口の海中から発見され、その中に阿弥陀の古像があった」との伝説が伝わる。
鉄燭台天文十九年、同二 十二年銘	大山町	県・保護文	軸部にそれぞれ天文 19 年（1550）、同 22 年（1553）の銘などが彫られる。
大山寺阿弥陀堂	大山町	国・重文	貞観 7 年（865）慈覚大師の創建といわれる。16 世紀中頃に再建。古材が用いられ鎌倉時代の様相を留める。
印賀宝篋印塔	日野町	県・保護文	花崗岩製。塔身正面に正平 12 年（1357）の南朝年号の紀年銘がある。
助沢正平五輪塔	江府町	県・保護文	地輪に南朝年号の正平 15 年（1360）の紀年が刻銘される。
上淀廃寺跡	米子市	国・史跡	7 世紀末～11 世紀の寺院跡。金堂跡・塔跡等が検出され、金堂跡から法隆寺と並ぶ国内最古の仏教壁画が出土。
大山寺旧境内	大山町	国・史跡	中国地方の最高峰大山の中腹に所在する天台宗の山林寺院。
金田瓦窯跡	南部町	県・保護文	白鳳時代（7 世紀後半）。大寺廃寺の創建時の軒丸瓦が出土。
上淀廃寺出土壁画・塑像 附瓦・土器類	米子市	県・保護文	古代寺院の堂内荘厳を発掘資料により復原できる極めて稀な一括資料。
石製鴟尾	伯耆町	国・重文	大寺廃寺に伴うものと考えられる。
霞の要害跡出土梵鐘鑄造 関連遺物	日南町	県・保護文	竜頭及び撞座の鑄型の特徴が、島根県安来市の清水寺所蔵の梵鐘と共通。

(6) 鎮守の森が伝える鳥取の自然

【ストーリー】

本県には、各地に神社社殿を覆う社叢や樹叢と呼ばれる鎮守の森がある。

日本の森林の植生は、国土が南北に長く広範な気候帯を含んでいることから、多様なタイプの森林を育んでおり、北海道北部の亜寒帯常緑針葉樹林帯、本州中部以北から北海道南部にかけての冷温帯落葉広葉樹林帯、本州中部以西から四国、九州にかけての暖温帯常緑広葉樹林帯（照葉樹林帯）、沖縄の亜熱帯林に大きく分けられる。本県の植生はこのうちの暖温帯常緑広葉樹林帯（照葉樹林帯）に該当し、県内の鎮守の森の植生もシイ、カシ、ダブなどの常緑広葉樹を主体とする典型的な照葉樹林の森がほとんどである。

暖温帯常緑広葉樹林帯（照葉樹林帯）は、かつて西日本から関東の平野部にかけて日本の西半分を覆うように広く分布していたが、人間が農耕を初めて定住するようになって以来人為的な改変を受け、現在では国土の 1.0%、森林の 1.5%と残存する面積は極めて小さくなって（環境省 平成3年度版環境白書）いる。特に本州・四国では非常に小規模なものが点在するのみである。こうした中で、本県に残る鎮守の森の植生は、全国的に見ても希少なものであると言える。

開発により周囲の森がなくなる中、この場所が守られてきた所以は、鎮守の森が信仰の対象であり神聖な場所として保護されてきたためである。ここは昔から地域の人々にとって、祈年祭、春・夏・秋など季節の祭りや新嘗祭といった祭りを行うなど身近なものとして親しまれ、大切にされてきた。

社叢や樹叢が国や県の天然記念物に指定されている神社としては、延喜式（平安時代中期に編纂）に記載のある意上奴神社、古事記にその創建が記されており因幡の白うさぎの神話が伝わる白兔神社や、同じく古事記に記される少彦名命が祭神であり、その神話が伝わる粟島神社などがある。各神社では、古より例祭が行われてきたと考えられるが、現在でも大野見宿禰命神社や犬山神社などでは麒麟獅子舞（国指定無形民俗文化財）が、虫井神社では花籠祭（県指定無形民俗文化財）が行われ、地域に親しまれている。

全国で国指定天然記念物となっている社叢・樹叢は 32 件しかないにも関わらず、本県にはそのうちの 4 件があるように比率が高いことから、本県の人々（地域の人々）が鎮守の森を大切に守り続けてきたことが窺える。

県内の多くの集落には、規模の大小を問わず神社や鎮守の森があり、そこで行われる祭りなどを通じて、地域のつながりが生まれる。こうして育まれた集落と鎮守の森の美しい景観が多く残されている。

【キーワード】社叢、神社祭礼、照葉樹林

【課題と展望】

近年、これらの鎮守の森の多くは、外来種の侵入による生態系の攪乱や、周辺の開発により生活区域が近くなることによって生じる管理面の問題、孤立した森の種の更新の問題など様々な課題を抱えている。県では、これらの課題に対応するため、平成 25 年度から国指定及び県指定天然記念物となっている鎮守の森に対して、樹木医による樹林調査を実施し、その一部については再生事業を実施している。今後も文化財部局で定期的な現状把握を行うとともに、関係者と連携しながら再生事業を行うなど健全な植生を維持していくことが必要である。

【主要な構成要素】

大野見宿禰命神社社叢（鳥取市、国・天記）	倉田八幡宮社叢（鳥取市、国・天記）	白兔神社樹叢（鳥取市、国・天記）
		
千代川左岸の独立丘陵上に位置する鳥取平野の極相林の姿を残す照葉樹林	千代川右岸に位置する鳥取平野の極相林の姿を残す照葉樹林	白兔海岸沿いの小丘上に位置し、日本海海岸部の植物分布を示す樹林
波波伎神社社叢（倉吉市、国・天記）		
		
天神川左岸の丘陵上に位置し、地域の原植生であるスダジイを主とする暖帯照葉樹林		

【構成文化財一覧（東部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
相屋神社社叢	鳥取市	県・天記	勝部川左岸にのびる尾根の先端緩斜面（標高 30～60m）に位置するスダジイを主とする照葉樹林
意上奴神社社叢	鳥取市	県・天記	鳥取市の南部の丘陵地に位置する標高 100～110m の北～北東斜面に 2 種類の異なる林相が見られる原生林的な照葉樹林
犬山神社社叢	鳥取市	県・天記	籠山から伸びる尾根の末端（標高約 120～180m）に残存している照葉樹林
坂谷神社社叢	鳥取市	県・天記	福部駅の東方約 400m、南北に開いた標高 30～100m の南向き斜面に位置するスダジイ林を主とする大規模な照葉樹林
高岡神社社叢	鳥取市	県・天記	高岡集落の北北西、標高約 100m の南向きの緩斜面に位置するスダジイ林と、低地部のタブノキ・ヤブツバキ林
虫井神社社叢	智頭町	県・天記	標高 330～440m の尾根の先端斜面に位置し、南向きの斜面はウラジログシ林、隣接する南南東斜面でブナ、オオモミジやクロモジなどを中心とする落葉広葉樹林

矢矯神社社叢	鳥取市	県・天記	鳥取市街地の南西約 14km、標高 190m 前後の山麓の北西側斜面に位置し、社殿前方斜面のタブノキ・ツバキ林、社殿後方の谷沿いのウラジロガシ・モチノキ林、社殿後方尾根寄りのスダジイ・モチノキ林
若桜神社社叢	若桜町	県・天記	若桜町と八頭町の境にある遠見山から北東にのびる尾根の先端南東斜面に位置し、シラカシを中心とする照葉樹林

【構成文化財一覧（西部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
粟島神社社叢	米子市	県・天記	弓浜半島のつけ根、米子市の中海東岸に位置するスダジイを主体とする照葉樹林
金華山熊野神社社叢	南部町	県・天記	金華山（標高 354m）の山頂付近の自然林。高木層にスダジイを多くもつことを特徴とする照葉樹林。
熊野神社社叢	江府町	県・天記	日野川の支流である俣野川の下流に位置し、ウラジロガシ、ヤブツバキが優占し、他にイチイ、ケヤキ、アカマツなどにより構成される自然林
楽楽福神社社叢	日南町	県・天記	日野川の支流、印賀川上流の左岸にある尾根の東南端の標高約 430～460m に位置するモミ林。常緑広葉樹林（照葉樹林帯）から夏緑林帯（ブナ帯）へと移行する中間林帯における一典型林とみなされるモミ林。
長寿寺・落合神社の社叢	南部町	県・天記	尾根の末端、標高 50～95m 付近に残るスダジイ林
長田神社社叢	南部町	県・天記	法勝寺川に面して突出する尾根を占めて位置し、面積約 3.5ha で県下最大級を誇るスダジイ林
根雨神社社叢	日野町	県・天記	根雨市街地東方の旧社殿域（現、高尾神社）と市街地西方の現社殿域にある社叢。旧社殿域は標高約 200～300m の尾根の末端に位置し、極相に達したシラカシ・ウラジロガシ林。
聖神社社叢	日野町	県・天記	黒坂駅の裏手、標高約 240～270m の丘陵地に位置し、シラカシとウラジロガシを中心とした照葉樹林

(7) 戦乱の時代が残した因幡・伯耆のたからもの

【ストーリー】

戦国時代の鳥取（因幡・伯耆）は、出雲・尼子氏、安芸・毛利氏、織田氏といった戦国大名たちが抗争する狭間にあり、守護であった山名氏をはじめ在地の国人衆が多く、戦乱に巻き込まれ、右往左往する時代であった。またそれに先立つ鎌倉～南北朝時代をみると、松尾社と地頭との対立の中で作成された「東郷荘下地中分絵図」、その後討幕を先導し隠岐に流されていた後醍醐天皇が伯耆国へ上陸し、船上山に立て籠もり幕府軍と戦うなど、様々な対立が引き起こした動乱の時代といえるであろう。

歴史の教科書にも掲載され著名な東郷荘下地中分絵図は正嘉2（1258）年に作成され、そこに描かれている寺社のうち倭文神社や松尾神社など現存するものがあるなど、当時の東郷池周辺（湯梨浜町）の景観を知ることができる重要な資料である。また後醍醐天皇の行宮跡であった船上山行宮跡（国史跡）を中心に、天皇を奉じ戦った名和長年に係わる史跡などが琴浦町から大山町にかけて色濃く残っている。その後の南北朝期の動乱は、古文書、新興寺至徳宝篋印塔（八頭町）や印賀宝篋印塔（日南町）といった石造物などに南朝と北朝の年号が混在していることから、県内の広い範囲で強い影響を受けていたと考えられる。

室町時代に因幡・伯耆の守護を務めた山名氏は、14世紀末には一族で全国の6分の1の守護職を分有し「六分一殿」と呼ばれ、大きな権力を握っていた。将軍家の後継争いに絡み山名氏と細川氏が対立し、応仁・文明の乱が勃発。因幡・伯耆も動乱の時代となり、ここに勢力を拡大してきたのが尼子氏である。16世紀半ばに尼子氏や周防・大内氏が衰退すると安芸国の毛利氏が台頭し、その勢力下におかれていく。尾高城（米子市）や手間要害（南部町）など伯耆を中心に、毛利氏と尼子氏による攻防が繰り返された。さらに天正期には毛利氏と織田氏の対立が決定的となり、この地域は両勢力の境目に置かれることとなった。こうした時期に、県内で確認されている500ほどの城郭の大半が築かれたが、武士たちが戦うためにつくったものばかりではなく、住民たちが身を守るための「村の城」ともいえる施設も含まれている。羽柴秀吉による2回の鳥取攻めにおいて毛利方の居城となった鳥取城を始め、秀吉の侵攻ルートと沿道に位置する若桜鬼ヶ城（若桜町）、私都城（八頭町）、さらには第2次鳥取攻め後東伯耆へ進出し攻防のあった羽衣石城（湯梨浜町）や東郷池周辺の諸城など、往時を偲ばせる城跡が各地に残る。また、点数は多くないが、この時期の動向を知ることができる古文書があり、大勢力の狭間という特異な歴史的環境において起きた事象を今に伝えている。

【キーワード】 大勢力境目の地、南北朝騒乱

【課題と展望】

周辺の大勢力に翻弄された因幡・伯耆では、守護職であった山名氏をはじめ、多くがその後国内を離れ他国へと移ってしまった。そのため、県内に当時の記録としては社寺に残っているものが大半で、その点数は少ない。これまでの中世史研究においては、原文書とともに近世以降に書かれた地誌や軍記物といった2次的資料に頼らざるを得ず、正しい歴史像が描けていないのが実情である。

ただ、近年鳥取県史編さん事業の中で、改めて過去の資料を解説しなおすなど地道な作業が行われていること、さらに大規模な広域道路建設等の開発事業に伴う発掘調査によって、当該期の遺跡の調査研究が進められてきており、文献資料には記載されてこなかった地域のさまざまな歴史が明らかとなってきている。

【主要な構成要素一覧】

鎌倉～南北朝時代の因幡伯耆		
船上山行宮跡 (琴浦町、国・史跡)	相見家文書 (米子市、県・保護文)	名和公一族郎党の墓 (大山町、町・史跡)
		
<p>隠岐を脱出した後醍醐天皇を奉じる名和長年と幕府側の合戦の際に、絶壁が天然の要害となった。船上山は平安時代以来の山岳仏教の聖地で、今も約 20 の寺坊跡が比較的良好に残るが、元弘 3 年 (1333) 閏 2～5 月に置かれた天皇行宮所の特定はできていない。</p>	<p>米子市八幡の相見家に伝来した南北朝期中世文書。後醍醐天皇綸旨を含む 8 通からなり、特に元弘 3 (1333) 年の後醍醐天皇綸旨は、隠岐を脱出した後醍醐天皇が船上山から発給したもので、筆跡等から天皇の自筆であることがわかる珍しいものである。</p>	<p>名和氏の菩提寺・長綱寺の裏山にある、200 余基の小型五輪塔などが集められた石塔群で、船上山の鎌倉幕府との合戦で戦死した一族を弔ったものと伝えられている。14 世紀前半頃の宝篋印塔をはじめ、15～16 世紀頃の五輪塔も含まれ、一石五輪塔などやや地域性のあるものもみられる。</p>
戦国時代の因幡伯耆		
鳥取城跡 (鳥取市、国・史跡)	若桜鬼ヶ城跡 (若桜町、国・史跡)	羽衣石城跡 (湯梨浜町、県・史跡)
		
<p>鳥取城は、久松山を利用した典型的な山城で、16 世紀中頃の築城と伝えられる。頂上の山上の丸を本丸とし、山麓に山下の丸を設けた古い山城の形式を近世大名の居城として江戸時代を通じて維持しており、日本の城郭史上注目すべき遺構である。太閤ヶ平は、久松山の北東にあり、本陣山とも呼ばれる。羽柴秀吉が鳥取城を攻めたときに、ここに本陣を置いたため、土塁や空堀がほぼ完存する。</p>	<p>若桜鬼ヶ城は、八東川と三倉川に挟まれた標高 452m の鶴尾山の山頂に築かれた山城。室町時代の在地領主矢部氏によって築造されたと思われるが、築城時期は不明。天正年間 (1573～1592) 以降尼子氏、毛利氏らによる勢力争いの舞台となり、後に木下重賢、山崎家盛が城主となって山頂一帯に残る石垣が整備された。池田家が因幡・伯耆の領主となるとほどなく廃城となり、破城のありさまを今に残す貴重な史跡である。</p>	<p>羽衣石城は中世東伯耆の国人 (武士) であった南条氏の居城で、県内最大規模の山城である。貞治 5 (1366) 年に築城されたという伝承もあるように、戦国時代の山城の特徴をよく残している。羽衣石城は戦国時代から安土桃山時代において東伯耆支配の中心となる城で、保存状態が良いだけでなく、関係資料の豊富さも県内中世城館の中では第一級である。</p>

【構成文化財一覧（東部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
鳥取城跡附太閤ヶ平	鳥取市	国・史跡	独立丘陵の久松山に位置する。織豊期に天神山から守護所が移り、以後因幡の拠城となる。因幡のランドマーク。
若桜鬼ヶ城跡	若桜町	国・史跡	一国一城令による破城の痕跡を残す、交通の要衝に所在する城郭。
亀井家墓所	鳥取市	国・史跡	天正期以降、津和野に移封されるまで鹿野城を拠点に気高郡を治める。
天神山城跡	鳥取市	県・史跡	因幡守護所として約 100 年機能した城。
二上山城跡	岩美町	県・史跡	因幡・但馬境目の城として重要な城郭。
景石城跡	鳥取市	市・史跡	県内に数少ない石垣が残る城郭。
鹿野城跡	鳥取市	市・史跡	亀井家の居城。王舎城とも呼ばれ、県内唯一の朝鮮系瓦（滴水瓦）が出土している。
武田高信の墓	鳥取市	市・史跡	山名氏家臣、その後一時因幡を治めた武将一族の墓。
佐治四郎の遺跡	鳥取市	市・史跡	佐治郷開発の祖と言われる佐治氏代々の居城の跡とされ、佐治四郎の墓所とも伝えられる
熊野神社遺跡とその付近	鳥取市	市・史跡	奈良時代に積石塚が造られ、鎌倉時代に和歌山県熊野大社から熊野信仰が取り入れられ神社等が建立された。
垣屋播磨守光成（宗管）の五輪塔	岩美町	町・史跡	室町時代、但馬山名家の家老。鳥取城攻めで織田方として戦い、巨濃郡一万石を与えられた。
垣屋隠岐守恒総の宝篋印塔	岩美町	町・史跡	関ヶ原の合戦で西軍として参加、敗北し高野山に逃亡。自刃して果てたと言われる。
鷹山城跡	八頭町	町・史跡	丹比氏代々の居城と伝わる。天正 9 年、羽柴秀吉の鳥取攻めの際に落城。
小畑城跡	八頭町	町・史跡	小畑出羽守の居城と伝わる。天正 3 年、尼子方の山中鹿之介に攻められ、陥落したという。
唐櫃城跡	智頭町	町・史跡	木原駿河守元信が築城し、永禄・元亀年間に草刈氏と合戦を交えたが敗れたといわれる。
吉川元春祈願状、寄進状	鳥取市	県・保文	宮吉城攻略戦の勝利に際し、感謝と以後の戦勝を祈念するとともに勝宿大明神に社領を寄進した。
塩文書	鳥取市	県・保文	慶長 13 年 4 月 14 日の日付で、亀井茲矩が家臣塩五郎太夫に宛てた書状。
新興寺文書	鳥取市	県・保文	新興寺に関連する中世文書。南北朝動乱期における寺および周辺地域の様相を示す。
伯耆国八橋郡上伊勢村方見神社神職池本家資料	鳥取市	県・保文	尼子勝久や吉川元春の関係史料の他、地域史を知ることができる資料として重要。
理性院等相承血脈次第（紙背後亀山上皇院宣案）	鳥取市	県・保文	全 5 紙からなる軸装卷子。表側に理性院等相承血脈次第、その裏側に計 6 通の後亀山上皇院宣案が記される。
上田家文書	鳥取市	県・保文	天正 9 年羽柴秀吉捷書は、豊臣政権下の因幡国支配体制の方針を示す貴重な史料である。
北川家文書	鳥取市	県・保文	因幡守護であった山名豊時、豊重、豊頼から配下の在地領主家の北川家へ宛てた文書群。
宮本家文書	鳥取市	県・保文	伯耆国の在地領主が中近世移行期の複雑な情勢を生き抜いた過程などを示す貴重な史料群。

浅津文書	鳥取市	県・保文	天正年間(1573～1592)前半における南条氏や浅津氏の動向を示す史料。
伝 亀井茲矩将來品	鳥取市	県・保文	朱印船貿易もしくは文禄の役の際に得たと思われる織物3点。
池田恒興像(狩野尚信筆)	鳥取市	県・保文	狩野尚信筆。林原美術館所蔵の二幅(「池田輝政像」「池田利隆像」とともに三幅対の池田家歴代像として制作されたうちの中幅。
新興寺至徳宝篋印塔	八頭町	県・保文	台座の左側面に「至徳二乙丑」(1385)の銘をもつ。
羽柴秀吉感状	鳥取市	市・有形	秀吉から鳥取攻めに関連し、弓河内村の長であった六郎左衛門に出された感状。
羽柴秀吉禁制	鳥取市	市・有形	天正8年5月に播磨国田恵村に対して出された禁制。
山王日吉神社宝篋印塔	鳥取市	市・有形	花崗岩でつくられた但馬・丹波地域の特色をもつ石塔。南北朝前半期の作と考えられる。
因幡民談(写本)	鳥取市	市・有形	小泉友賢が現地に伝わる史料や伝記等を収集し1688年(元禄元年)に完成したもの。
山王日吉神社	鳥取市	国登録・建造物	16世紀前半に天神山城の鎮護神として、比叡山坂本の日吉大社から文霊を勧進したのが始まりとされる。

【構成文化財一覧(中部)】

名称	所在地	指定・分類等	内容
船上山行宮跡	琴浦町	国・史跡	船上山は平安時代以来の山岳仏教の聖地で、元弘3年(1333)閏2月～5月に隠岐を脱出した後醍醐天皇を奉じる行宮所となった。
羽衣石城跡	湯梨浜町	県・史跡	東伯耆の国人南条氏の居城で、県内最大規模の山城。貞治5(1366)年に築城されたという伝承がある。
八橋城跡	琴浦町	町・史跡	戦国時代、東伯耆の要衝である。行松氏歴代の城であったが、尼子氏と毛利氏の争乱の舞台となった。
槻下豪族館跡	琴浦町	町・史跡	『伯耆民談記』によれば鎌倉時代、岩野弾正の屋敷であったというが詳しくは不明。
籠津城跡	琴浦町	町・史跡	日本海を見下ろす台地先端に位置する。戦国時代、槇氏によって築城され、天正年間に廃城になったとされる。
河口城跡	湯梨浜町	町・史跡	日本海に面した丘陵の頂部に位置し、伯耆国と因幡国の国境にある要所で、室町時代頃に河口氏(山名氏)が築城した。
馬ノ山展望台	湯梨浜町	町・名勝	吉川元春の居城で、羽柴秀吉と対峙した。その当時に築かれた可能性を持つ土塁が残る。
山名氏、尼子氏文書附 子経久肖像画一幅	倉吉市	県・保護文	山名氏や尼子氏が定光寺へ寺領を寄進したり、寺領を安堵した内容の10通の中世文書。
小嶋元清家臣連署起請文 木札	倉吉市	県・保護文	戦国時代末期における因幡・伯耆両国の軍事情勢をうかがわせる史料
光徳寺文書	琴浦町	県・保護文	光徳寺(琴浦町)に伝来する中世文書。出雲尼子氏の関係史料。
南条元清寄進状	湯梨浜町	町・有形	南条元清が元禄5年、松尾神社に社領75石を寄進したもの。

東郷浪人踊	湯梨浜町	県・無民	羽衣石城落城後、浪人たちが城主を慕い、うら盆の夜に供養踊りを踊り明かしたのが起りと伝えられる。
-------	------	------	---

【構成文化財一覧（西部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
米子城跡	米子市	国・史跡	一国一城令の例外で荒尾氏が治めた鳥取藩内2つ目の城跡。戦国末～近世初頭の城郭の形態をよく留める。
大山寺旧境内	大山町	国・史跡	江戸時代を通じて自治を認められた大山領三千石の中心地。
尾高城跡	米子市	市・史跡	交通の要所にあり、戦国時代には尼子・毛利 両氏による攻防戦が幾度も繰り広げられた。
中村一忠墓地附中村一忠主従木像 三体	米子市	市・史跡	慶長5（1600）年駿河から転封された中村一忠は同9年に病没し、後に殉死した家臣とともに葬られている。
法勝寺城跡	南部町	町・史跡	西伯耆における要衝として重要視され、比較的早くから山名氏により築城されていたと思われる。
江美城跡	江府町	町・史跡	文明16（1484）年に蜂塚安房守が築城。その後毛利氏を経て、吉川広家が近世城郭へと改造し慶長年間まで存続したとみられる。
門前礎石群	大山町	町・史跡	径約1mの礎石が東西に7基、南北に4基並ぶ。中世の寺院跡と推測される。
名和公屋敷跡及び碑	大山町	町・史跡	名和行高・長年父子2代の館跡の一部。館跡の一角にある碑は、鳥取藩主池田治道が命じ、その遺志を継いだ池田斉訓が天保6（1835）年に建立した。
富長城跡	大山町	町・史跡	海岸を見下ろす断崖上に築かれる。五角形状の主郭、帯郭、西の2郭、堀が良好に残る単郭式の山城。
名和公一族郎党の墓	大山町	町・史跡	名和氏の菩提寺・長綱寺の裏山にある200余基の小型五輪塔などが集められた石塔群。船上山での合戦で戦死した一族を弔ったものと伝えられる。
短刀銘 備州長船住兼光 附 金熨斗付合口拵	米子市	国・重文	津和野藩主亀井茲政の寄進。備州長船住兼光の銘があり、鎌倉時代末期か南北朝時代の作と推定される。
相見家文書	南部町	県・保護文	後醍醐天皇綸旨を含む8通からなり、巨勢氏（相見氏）への恩賞、あるいは相見氏が神主をつとめる八幡宮への土地の寄進等に関する内容となっている。
瑞仙寺文書	米子市	県・保護文	瑞仙寺に伝来する中世文書。伯耆国の領域支配を担った人物からの安堵状・寄進状・禁制。
大安寺文書	南部町	県・保護文	大安寺の伝来文書。中世の激しい動乱を生き抜いた伯耆国内寺院の実態を示す。
大山寺文書	大山町	県・保護文	伯耆国及びその周辺の広い地域の歴史に大きな影響を与えた大山寺に伝来した文書。
刀 無銘古伯耆物 附銀造 糸巻太刀拵	米子市	県・保護文	平安時代末期の古伯耆物と推定され、拵などから津和野亀井家が奉納した短刀（重要文化財）と対になるものと思われる。
鉄燭台 天文十九年、同 二十二年銘	大山町	県・保護文	軸部にそれぞれ天文19年（1550）、同22年（1553）の銘などが彫られる。

霞の要害跡出土梵鐘鑄造関連遺物	日南町	県・保護文	現存する安来市清水寺梵鐘と種型を同じくする。同鐘に応永 28 (1421) 年銘があり、同時期と考えられる資料。
印賀宝篋印塔	日南町	県・保文	花崗岩製。塔身正面に正平 12 年 (1357) の南朝年号の紀年銘がある。
太刀 銘安綱	米子市	市・有形	大神山神社に伝わる太刀。有力な大名等が奉納したものか。
杉原盛重宝篋印塔	南部町	町・有形	来待石製の大型宝篋印塔。
故伯耆守名和君碑	大山町	町・有形	氏殿神社境内にあり、鳥取藩主池田慶徳の命で安政 5(1858) 年に正墻薫が建てたもの。
江尾城出土金箔瓦	江府町	考古資料	山陰唯一の金箔つきの鯰瓦。

(8) 揚羽蝶の光と影 —鳥取池田家の政治と文化—

【ストーリー】

江戸時代の265年間は、さまざまな点で現在の鳥取県の基盤がつくられた時期である。

関ヶ原の戦いでは因幡・伯耆のほとんどの大名が西軍に参加したため、多くの土地で領主の交代が起きたが、小藩が分立する様相は引き継がれた。農政とともに海外貿易に力を入れた亀井氏の鹿野藩や、米子の町の整備を行い国境に重臣を配置した中村氏の米子藩は、戦国の遺風を留めるものだった。

元和3年(1617)、池田光政が年少を理由に姫路から鳥取に移されると、大山領3千石を除く因伯32万石は一大名の領知するところとなる。鳥取城下町の整備や重臣に地方行政を任せる自分手政治の採用は、後の鳥取藩の礎となっていく。自分手政治では、松崎・倉吉・黒坂など各地に陣屋が構えられただけでなく、浦富の鶴殿家墓所や八橋の津田家墓所などに見られるように重臣家墓所が支配地域に設けられたのも大きな特徴である。

寛永9年(1632)、今度は池田光仲が幼少のため岡山から鳥取へ国替えになった。鳥取藩は全国有数の大藩である上に、光仲が徳川家康のひ孫だったため、鳥取池田家は高い家格を有した。光仲は初入国直後に因幡東照宮を創建し、今に続く麒麟獅子舞を始めたとされる。また、池田家墓所の亀跌円頭墓碑には黄檗宗への帰依が窺える。

以後明治維新まで12代にわたり鳥取藩池田家が因伯2国を治めるが、江戸中期以降は度重なる災害・飢饉とそれに続く百姓一揆や、幕府が命ずる手伝普請によって財政難に苦しんだ。その中で生み出された請免と呼ばれる税制は、代官に代わり大庄屋に年貢の徴収を請け負わせたもので、多くの豪壮な大庄屋の屋敷を残すことになった。鳥取藩政資料や各地で保存されている検地帳類、新田・新井手関係の文書等からは、鳥取藩の農政に対する重視と苦闘が読み取れる。

自分手政治のもと伯耆では地場産業が栄えた。倉吉の千歯扱き・伯州綿・日野郡の鉄はその代表である。特にたたら製鉄に対する放任政策は、江戸時代唯一の技術書である下原重仲の『鉄山秘書』を生む下地となった。一方因幡では因久山焼や浦富焼などの地方窯の操業が目を引く。

文化面では、土方稻嶺や沖探容などの藩絵師の活躍と、『因幡誌』『伯耆志』などの地誌類の編纂が特筆される。庶民文化としては、戦国時代や中村氏に題材を求めた講談や、藩祖光仲も愛好した相撲の広がり、さいのかみ・川六の狛犬などの石造物を挙げることができる。

最後の藩主池田慶徳が水戸徳川家から迎えられたこともあって、鳥取藩は幕末の動乱に巻き込まれた末に官軍側として明治維新を迎える。六尾反射炉と由良台場をはじめとする鳥取藩台場群は、池田家という因伯を覆った揚羽蝶が最後にとまった徒花と言えよう。

【キーワード】鳥取藩主池田家、自分手政治、地場産業、庶民文化

【課題と展望】

江戸時代に属する文化財は、現代との時間的な近さもあって、県内各地に多数が遺されている。これまでに指定等によって保護が図られているものは、鳥取藩に関わりの深いものや、建築物や美術工芸品などの優品が多い。

一方、庶民の生活や文化、産業に関わる文化財については、十分な調査と保護が行われているとはいえない。一見地味でありふれて見えるものの中にも、地域の特徴をよく示すものや、地域にとって重要な情報を含むものが存在する。日野郡を中心に数百か所が分布するたたら製鉄遺跡や、各地に残る庶民信仰の石造物、各市町村が管理する行政文書に含まれている検地帳などの土地台帳類がそのよい例である。しかし、こうしたものは既に多くが消滅・散逸してしまっている。

今後は、芸術的な価値の高い優品の調査と並行して、庶民生活に関わる文化財の中から後世に伝えるべきものを掘り起こして保護する取組が求められるであろう。

【主要な構成要素一覧】

鳥取城跡附太閤ヶ平（鳥取市、国・史跡）	池田家墓所（鳥取市、国・史跡）	樗谿神社（鳥取市、国・重文）
		
鳥取池田家十二代の居城。天守は江戸前期に焼失し、藩政は二の丸を中心に行われた。	藩祖光仲から十一代慶栄までと東館・西館当主の墓所。昭和初年に江戸から妻子墓が移された。	池田光仲が慶安3年（1650）に因幡東照宮として創建した。江戸前期の代表的な寺社建築。
門脇家住宅（大山町、国・重文）	由良台場（北栄町、国・史跡）	絹本著色猛虎図（鳥取市、県・保護文）
		
所子村で大庄屋をつとめた門脇家の住宅。主屋は明和6年（1769）の建築。	文久4年（1864）伯耆で最初に完成した台場で、六尾反射炉で製造した大砲が据えられた。	江戸中期長崎出身の絵師片山楊谷による掛軸。細密な描写に南蘋派の影響が見られる。

【構成文化財一覧（東部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
若桜鬼ヶ城跡	若桜町	国・史跡	江戸初期の山崎氏の居城。一国一城令による破城の痕跡を留める。
鹿野城跡	鳥取市	国・史跡	江戸初期の鹿野藩亀井氏の居城。
亀井家墓所	鳥取市	国・史跡	鳥取には藩祖亀井茲矩の墓所のみ。
伝 亀井茲矩将来品	鳥取市	県・保護文	亀井茲矩が朱印船貿易でもたらしたとの伝承を織物。
塩文書	鳥取市	県・保護文	亀井茲矩が家臣塩五郎大夫に宛てた貿易関係の書状。
磯江文書	鳥取市	市・有形	夏泊と海女漁の由来に関連する文書。
箕浦家武家門	鳥取市	市・史跡	重臣箕浦家の門で、数少ない鳥取城下町の遺構のひとつ。
鳥取藩政資料	鳥取市	有形	県立博物館所蔵の藩政に関する膨大な古文書類。
尚徳館碑	鳥取市	有形	十二代慶徳によって藩校尚徳館に建てられた石碑。
尚徳練武館伝「雖井蛙流平法」	鳥取市	市・無民	鳥取藩の御家流であった剣術。戊辰戦争での活躍が伝わる。
鳥取藩台場跡 浦富台場跡	岩美町	国・史跡	幕末に鳥取藩が築造した8か所の台場のうちのひとつ。

鵜殿家墓地	岩美町	町・史跡	自分手政治で浦富陣屋を治めた鵜殿氏の墓所。
浅井御番所日記	若桜町	町・有形	国境を管理した番所の日記。
諸鹿村御検地帳	若桜町	町・有形	江戸前期の土地台帳。
矢部家住宅	八頭町	国・重文	江戸時代の大庄屋の住宅で、17世紀初頭のもの。
福田家住宅	鳥取市	国・重文	津ノ井村の庄屋を勤めた旧家住宅。17世紀を下らない。
三百田氏住宅 附一代普請方 合力人数帳一冊	若桜町	県・保護文	庄屋を勤めた旧家の元禄期の住宅。
樗谿神社本殿・唐門・拝殿 及び幣殿	鳥取市	国・重文	池田光仲が勧請した鳥取東照宮の遺構。
聖神社本殿、幣殿及び拝殿 附透塀及び棟札16枚	鳥取市	県・保護文	寛政年間の改築と推定され、彫物で埋め尽くされている。
木造麒麟獅子頭	鳥取市	県・保護文	岡益稻荷神社に伝わる。形態から麒麟獅子頭の中では最古級と考えられる。
観音院庭園	鳥取市	国・名勝	元禄頃の築造と推定される池泉鑑賞式の庭園。
摩尼寺仁王門	鳥取市	県・保護文	18世紀後期に建てられた三間一戸楼門。
和蘭陀写水指	鳥取市	県・保護文	文化年間頃の因久山焼の優品。陶器。
浦富焼窯跡地	岩美町	町・史跡	江戸後期に浦富で焼かれた磁器窯跡。
因久山焼等地方窯製品	鳥取市 ほか	有形	因久山焼、因窠山焼、因吉山焼等、江戸後期から幕末にかけて多くの磁器窯や陶器窯が開かれた。
智頭往来志戸坂峠越	智頭町	国・史跡	鳥取城下と姫路城下を結ぶ上方への主要道で、鳥取藩の参勤交代路。
藩絵師等の作品	鳥取市 ほか	県・保護文 ほか	土方稲嶺、沖一峨等、江戸中期～後期に多くの絵師が活躍した。
三十六歌仙額	鳥取市	県・保護文	鳥取東照宮勧請時に池田光仲が奉納したと考えられるもの。狩野探幽筆。
切支丹灯籠	鳥取市	県・保護文	鳥取市内5箇所にある燈籠の棹石で、キリスト教の聖者やラテン文字を思わせる彫刻をもつ。
『因幡誌』等の地誌類	鳥取市	有形	江戸前期から後期にかけて、多くの地誌類が著された。
川六の狛犬	鳥取市	有形	天保～文久に活躍した青谷の石工の狛犬で、県東部に多く遺る。
両国梶之助の墓地	鳥取市	市・史跡	元禄年間の名力士の墓。鳥取市宝木。
相撲塚	鳥取市 ほか	史跡	県内各所に残る力士の墓碑や供養塔。

【構成文化財一覧（中部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
三彩稜花刻花文盤	倉吉市	県・保護文	倉吉に配流された里見忠義の遺品。
荒尾氏墓所附位牌群	倉吉市	市・史跡	倉吉で自分手政治を行った荒尾氏の墓所と位牌。
津田家墓所	琴浦町	町・史跡	八橋陣屋を治めた津田氏の墓所。
橋津の藩倉	湯梨浜町	県・保護文	県内に唯一の藩倉の遺構で、3棟が遺る。
鳥取藩台場跡 由良台場跡	北栄町	国・史跡	鳥取藩台場跡のうち最も残りのよいもの。文久4年に武信潤太郎が完成。
鳥取藩台場跡 赤碕台場跡	琴浦町	町・史跡	近年良好に依存していることが判明した台場跡。
鳥取藩台場跡 橋津台場跡	湯梨浜町	国・史跡	橋津川の河口に築かれた台場。

六尾反射炉跡	北栄町	町・史跡	幕末に大砲の製作を目的として建設された西洋式の反射炉。
狼谷鉄山	三朝町	史跡	六尾反射炉で使う鉄素材を生産した鉱。
各村田畑地続全図	湯梨浜町	町・有形	天保の地改めで作成された土地台帳管理用の大図。
河本家住宅	琴浦町	国・重文	主屋は万治元年（1659）以前の建築。
尾崎家住宅	湯梨浜町	国・重文	宗旨庄屋や大庄屋を勤めた豪農の、江戸時代中期の農家建築。
神崎神社本殿	琴浦町	県・保護文	嘉永6年（1853）鳥取藩の宮大工が造営。多くの彫刻をもつ。
木喰仏	湯梨浜町等	県・保護文	江戸後期全国を遊行した木喰上人が各地に滞在時に彫刻した仏像群。
長谷寺の絵馬群	倉吉市	県・保護文	室町から江戸時代にかけて奉納された約40点の絵馬群で、江戸前期の若衆歌舞伎を描くものが特筆される。
倉吉の鋳物師用具（斎江家）及び製品	倉吉市	国・重有民	江戸時代から昭和にかけて、茶釜・鉄瓶・火鉢等の鉄器を鋳造した斎江家に伝わるもの。
倉吉の千歯扱き及び関連資料	倉吉市	国・登録有民	江戸中期から生産され始めた倉吉の名産品の関連資料。

【構成文化財一覧（西部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
米子城跡	米子市	国・史跡	一国一城令の例外で荒尾氏が治めた鳥取藩内2つ目の城跡。戦国末～近世初頭の城郭の形態をよくとどめる。
中村一忠墓地附中村一忠主従木像三体	米子市	市・史跡	江戸初期の米子藩主と殉死した2家臣の墓所及び木像。
横田内膳墓碑及び遺品	米子市	市・有形	米子城騒動で討たれた家老横田内膳のもの。
横田内膳裁許状	江府町	町・有形	横田内膳が土地争いを裁いた際の文書。
清洞寺跡	米子市	市・史跡	米子藩加藤家や池田光政時代の五輪塔が遺る。
鏡山城跡	日野町	史跡	江戸初期の黒坂藩関氏の居城跡。
大山寺旧境内	大山町	国・史跡	江戸時代を通じて自治を認められた大山領三千石の中心地。
大神山神社奥宮本殿・幣殿・拝殿・末社下山神社本殿・幣殿・拝殿	大山町	国・重文	文化2年（1805）に再建された、権現造の寺社建築。
米子城鯨瓦	米子市	市・有形	嘉永5年（1852）の大修理時に製作された鯨瓦。
旧小原氏長屋門	米子市	市・有形	米子城下町の遺構。
荒尾家墓所 附荒尾家位牌	米子市	市・史跡	米子を治めた荒尾家代々の墓所。了春寺にある。
鳥取藩台場跡 境台場跡	境港市	国・史跡	境水道を守った台場跡。
鳥取藩台場跡 淀江台場跡	米子市	国・史跡	淀江港の近くに設けられた台場跡。
泉龍寺の因幡二十士遺品	日野町	町・有形	幕末の尊王攘夷派が黒坂幽閉時に遺したもの。
松南農兵隊遺品	米子市	市・有形	幕末に海防警備のため結成された農兵隊のもの。
佐野川普請皆出来の碑	伯耆町	町・史跡	日野川から長者原台地に水を引いた用水の完成記念碑。
長者原新井手設計絵図面	南部町	町・有形	佐野川用水の設計図。
傘形連判状	江府町	町・有形	一揆の首謀者を不明確とするための連判状。
旧山上村等の検地帳類	日南町	有形	寛永10年（1633）の原本をはじめ付帯帳簿類がほぼ完全に遺る。

門脇家住宅 主屋・水車 小屋・米蔵・新蔵	大山町	国・重文	明和6年(1769)建築の住宅で、伯耆特有の寄棟造。
吉持家住宅 棟札二枚	南部町	県・保護文	長者原台地の開拓に尽力した大庄屋の江戸後期の住宅。
近藤家住宅	日野町	県・保護文	江戸後期以降日野郡で栄えた大鉄山師の住宅。
南門脇家住宅	大山町	県・保護文	主屋は江戸後期の上層農家の住宅形式をよく伝える。
後藤家住宅 主屋・一番 蔵・二番蔵	米子市	国・重文	廻船問屋を営んでいた後藤家の住宅。主屋は江戸中期の建築。
大谷家資料	米子市	市・有形	江戸時代の竹島渡海に関連する資料。
常福寺経蔵及び山門 附 棟札 扁額	日南町	県・保護文	多里宿の旦那寺の建築物。
さいの神	日吉津 村他	町・有形ほか	村内安全を祈って路傍に建てられた石碑で、夫妻一对を刻むものが多い。
一字一石経碑・六十六部 廻国巡礼碑など	大山町 ほか	史跡	廻国行者等による信仰碑。主に江戸後期のもの。
藤屋鑪床	伯耆町	町・史跡	たたら地下構造である床釣を見ることができる。
近世の鑪跡(上谷中山鉄 山ほか)	日南町 ほか	史跡	日野郡内だけで150か所以上を数え、近藤家以外に中小の鉄山師が経営したものも多い。
鉄山要口訳	日野町	有形	下原重仲の孫が著した主に経営面に関する鉄山の記録。
下原重仲の詠草	江府町	町・有形	『鉄山秘書(鉄山必用記事)』を著した宮市村出身の下原重仲の遺品。
中石見の銀山跡	日南町	史跡	亀井茲矩が日野郡内で開発したと伝わる銀鉱山跡。

(9) 深山を歩き、荒波を越え —とっとり歴史の道を歩く—

【ストーリー】

鳥取県の眼前に広がる日本海と、その背後にそびえる名峰大山を筆頭とした雄大な山々は、これまでいつの時代も人々の行く手を阻み、文化や思想の往来を物理的に停滞させてきた、と捉えられるかもしれない。しかし実際には、因伯両国から成るこの地には、先史時代以来、ヒト・モノ・技術・信仰等をダイナミックに交錯させてきた様々な「道」が存在する。

県内にも多くの集落が築かれた弥生時代、遥か西方の中国や朝鮮半島との交流を支えた「道」は、日本海に渦巻く潮の流れと、適度な距離感で形成されていた天然の良港・潟湖から成る。青谷上寺地遺跡や妻木晩田遺跡の人々はこれらの環境を巧みに利用して、当時の世界を牽引していた東アジア列強との接点を求め、環日本海圏交易ネットワークの一端を担った。

安土桃山時代、因幡の亀井茲矩は、拠点である鹿野から程近い青谷を舞台に、朱印船貿易を進めた。また北前船は、青谷や賀露をその寄港地とした。鳥取藩においては、商都大坂との交易を支えるため、菊港をはじめとした鳥取十湊や、橋津の藩倉といった物流拠点を藩内に整備し、繁栄の礎を築いている。

中国山地を超えなければならない南北の回廊、また日本海沿岸付近を東西に走る陸路においても、先人たちの確かな足跡が数多く刻まれている。古くは、豊茂叶林遺跡等で石器製作に勤しんだ旧石器人や縄文人による遠隔地石材（例えば隠岐産黒曜石）の獲得に利用された回遊の「道」がある。また、青谷横木遺跡で柳の街路樹とともに検出された古代山陰道においては、その「道」の整備によって、都との繋がりが飛躍的に向上した。古道によって当地に足を踏み入れたであろう伯耆守山上憶良や因幡守大伴家持は、因伯両国を題材とした歌を数々詠んでいる。中でも天平宝字3年（759年）の正月に家持が詠んだものは、『万葉集』最後の歌として名高いものである。

池田家 32 万石の時代ともなれば、参勤交代の「道」として、上方や江戸へ通ずる主要道がさらに整えられた。現在も残る山陰道（但馬往来）蒲生峠越や智頭往来志戸坂峠越など街道筋の景観は、当時の賑わいを容易に呼び起こさせてくれる。また大山道（横手道・川床道・坊領道・尾高道・溝口道）は、大山寺への参詣道や大山牛馬市へ通ずる主要道として、往時の面影を色濃く残している。1900年代初頭に開通した山陰本線もまた、近代鳥取の振興を支えた「道」として捉えることができる。

このように因伯各地の「道」には、遠く東アジアや国内各地との断続的かつ積極的な交流の証が明瞭に遺されている。

【キーワード】日本海、交易、回遊、環日本海圏交易ネットワーク、歴史の道

【課題と展望】

歴史に関連する道については、文化庁選定の「歴史の道百選」のような近世を中心とした時期の古道がイメージされるが、「道」には時空間における連続性や蓄積性、可変性の性質があり、その歴史的景観は、常に変化するという認識を忘れてはならない。我々が今見ている「道」は、現代まで残る構成文化財の一場面や一部分を見ているのであって、過去の様相を全て表しているとは限らない。

鳥取県が誇る様々な「道」は、歴史的にも地域的にも非常に豊かな表情を魅せており、「道」とその周辺の構成文化財の一体的整備は、各地域の歴史資源を活かしたまちづくりを進めていくうえで、有効な手段となる。歴史文化を活かした（に期待した）地域活動との連携と交流を深めることで、例えば重要な史跡を巡るルートの創出等が期待できる。

【主要な構成要素（東部）】

山陰道蒲生峠越（岩美町、国史跡）	智頭往来志戸坂峠越（智頭町、国史跡）	古代山陰道（鳥取市ほか、史跡）
		
鳥取藩が整備した鳥取と京都を結ぶ主要街道。但馬往来とも呼ばれる。	平安時代以降、畿内と因幡地方を結ぶ重要道。特に鳥取池田藩の参勤交代時には、上方への主要道として重要な役割を担った。	道幅6～7m、街路樹として柳の木が植えられていた官道。女子群像の板絵も出土。

【構成文化財一覧（東部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
青谷上寺地遺跡	鳥取市	国・史跡	弥生時代後期を中心に、国内外各地との交流の証を示す拠点集落。
青谷上寺地遺跡出土遺物	鳥取市	国・重文	精巧な作りの各種道具や国内外との交流を示す出土品多数。
青谷横木遺跡	鳥取市	史跡	飛鳥時代から平安時代にかけて古代山陰道が通り、西因幡の交通の拠点であったと考えられる遺跡。
山陰道駟馳山峠の石畳	鳥取市	史跡	幅2m、延長152m分残る江戸時代（文化年間）の石畳の旧道。備前の多十郎が寄付を募り造った。
智頭枕田遺跡出土先史時代遺物	智頭町	県・保護文	瀬戸内との交流を示す石器や土器が出土した縄文時代中期末から後期初頭の集落跡。
ナウマンゾウ牙温泉津沖日本海底産	鳥取市	県・天記	全長230cm、最大周囲45cmのナウマンゾウの左上切歯化石。
ナウマンゾウ牙萩沖日本海底産	鳥取市	県・天記	全長169cm、最大周囲41.3cmのナウマンゾウの左上切歯化石。
摩尼山	鳥取市	国・名勝	喜見山摩尼寺の境内を成す山で、大山・三徳山と並ぶ天台宗の拠点の霊山。
智頭の林業景観	智頭町	国・重文景	近世から集く人工林とその森林に囲まれた山村集落、旧街道から成る林業景観。
石谷家住宅	智頭町	国・重文	元禄年間に智頭へ移り住んだと伝えられる石谷家の居宅。地元の大工である田中力蔵が設計監督を務め、大正8年から昭和4年にかけて建てられた。
桂見遺跡出土縄文時代遺物 一括 一丸木舟、一櫂	鳥取市	県・保護文	縄文時代後期の丸木舟2艘で、うち1艘は現存する縄文時代丸木舟の中でも最大級。

塩文書	鳥取市	県・保護文	慶長13年4月14日の日付で、亀井茲矩が家臣塩五郎太夫に宛てた書状。
伝亀井茲矩将来品	鳥取市	県・保護文	朱印船貿易もしくは文禄の役の際に得たと思われる織物3点。
若桜鉄道若桜駅本屋及びプラットホーム、転車台ほか計23件	若桜町 八頭町	国・登録建造物	昭和5年に全線開通した旧国鉄若桜線に関連する諸施設。
若桜橋	若桜町	国・登録建造物	大恐慌後、時局匡救事業として建設された八東川に架かる鉄筋コンクリート造3連アーチ橋。
鳥取藩台場跡	岩美町他	国史跡	江戸末期、鳥取藩内に築かれた6箇所在台場跡。浦富台場跡。
北前船寄港地	鳥取市	日本遺産	鳥取市賀露地区・青谷地区の「北前船寄港地」に関する文化財。

【主要な構成要素（中部）】

橋津の藩倉（湯梨浜町、県・保護文）	菊港（琴浦町、史跡）	
		
山陰地方で唯一の江戸時代の御蔵。古御蔵には天保十四年の棟札が残る。	鳥取十湊の一つで、鳥取藩の藩倉と船番所が置かれた。	

【構成文化財一覧（中部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
鳥取藩台場跡	北栄町 琴浦町 湯梨浜町	国・史跡	江戸末期、鳥取藩内に築かれた6箇所在台場跡。由良台場跡、橋津台場跡、赤崎台場跡。
三徳山	三朝町	国・名勝・史跡	706年以来栄えてきた修験道の霊地。麓には三徳山三佛寺が存在。
三朝橋	三朝町	国・登録建造物	昭和9年に三徳川に架けられた橋長69mのRC造7連桁橋。木橋を意識したデザイン。

【主要な構成要素（西部）】

大山道（横手道）（大山町、史跡）	大山道（川床道）（大山町、史跡）	
		
日野往来や出雲街道とも合流する山陽方面からの主要道。	倉吉方面からの参詣者や牛馬を曳く博労が通った道。慶長年間の石畳道が残る。	

【構成文化財一覧（西部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
妻木晩田遺跡	米子市 大山町	国・史跡	弥生時代後期から古墳時代前期頃にかけての集落や墓の変遷が追える大規模集落跡。
豊茂叶林遺跡出土旧石器時代遺物一括	鳥取市	県・保護文	後期旧石器時代のナイフ形石器をはじめとした石器の製作跡。
旧日ノ丸自動車法勝寺鉄道車両 附関連資料一括	米子市 南部町	県・保護文	明治 20 年英国パーミンガム製で、国内に現存する最古の四輪木製三等客車を始めとした関連資料。
御来屋駅	大山町	国・登録建造物	駅舎は 1902 年山陰線開通当時のもので、山陰最古。
大山寺旧境内	大山町	国・史跡	大山の中腹に所在する天台宗の山林寺院。大山信仰圏の中心。
鳥取藩台場跡	境港市 米子市	国・史跡	江戸末期、鳥取藩内に築かれた 6 箇所台場跡。境台場跡、淀江台場跡。
石馬	米子市	国・重文	本州では唯一出土の石馬。九州との交流を示す。
上淀廃寺跡出土壁画・塑像附瓦・土器類	米子市	県・保護文	白鳳寺院である上淀廃寺跡から出土。山陰地方における仏教文化の導入と定着を示す資料。
旧日野橋	米子市	国・登録建造物	旧国道 9 号が日野川を跨ぐ地点に昭和 4 年に架けられた曲弦式 6 連ワーレントラス橋。
大山町所子伝統的建造物群保存地区	大山町	国・重伝建	中世には下賀茂神社の社領。集落の中心を坊領道（大山道）が通る。
博労座	大山町	史跡	近世大山牛馬市のメッカ。
大神山神社奥宮の石畳道	大山町	史跡	日本一長い石畳の参道と言われる。
大山のもひとり神事	大山町	県・無民	毎年 7 月 14・15 日に行われる大山の原初信仰。
掩体壕	米子市	史跡	旧海軍米子航空基地である現米子空港周辺に残る防御・保管施設。

(10) 変革と伝統 ーとっとり近代産業事始めー

【ストーリー】

船出したばかりの近代国家であった明治日本は、政府主導で西洋科学技術を導入し、急速な近代化を推し進めた。科学技術の導入によって最も急速に近代化が進行したのは産業分野であった。鳥取県では産業近代化の前提条件とも言えるインフラストラクチャーの整備が出遅れ、鳥取県再置後の明治 14 (1891) 年にようやく道路整備が開始されて以降、明治後期から昭和初期にかけて、山陰線や若桜線などの鉄道網の整備や、鳥取市の旧美敷水源地水道施設を始めとする水道施設、発電・送電施設 (旧江尾発電所など) の整備が順次行われた。

こうしたインフラ整備の遅れもあり、鳥取県では官営の大規模産業こそ展開しなかったものの、江戸時代以来発達してきた製鉄業、繊維産業、農業などの伝統産業が近代的発展を遂げる。

奥日野のたたら製鉄では、根雨の鉄山師近藤家が積極的に近代化を進め、都合山たたら跡に代表される伝統的たたら場を複数経営する方式を廃し、明治 20 (1897) 年に福岡山製鉄所での集約生産体制に切り替えた。生産体制の近代化により和鉄の生産量は飛躍的に増加し、近藤家の鉄生産高は明治末にピークを迎えている。同じく江戸時代から主要産業であった綿・木綿・緋生産も機械化・近代化が進められた。その一方で、江戸時代には盛んではなかった養蚕と製糸業も、明治後期から昭和初期にかけて一定の発達を見せた。

工業のみならず、農業においても科学技術の導入や、生産体制の近代化が進められた。例えば、鳥取を代表する農産物である二十世紀梨は、明治 37 (1904) 年に鳥取市の篤農家北脇永治が栽培を始め、県による生産技術の研究開発と普及施策によって大正～昭和初期に栽培が全県に広がった。

こうした産業経営の担い手の多くは、江戸時代後期に資本を蓄積した豪商や大地主 (豪農・山林所有者) であった。彼らは企業家としてさまざまな事業を興し、産業社会・資本主義社会化の推進主体となっていく。智頭の石谷家住宅や倉吉の小川家住宅、根雨の近藤家住宅などの大規模な住宅建築に、当時の資本家たちの栄華を見ることができる。

一方で近代化は大きな負の歴史を生み出した。資本主義は帝国主義・植民地主義と結びつき、資源と新たな市場をアジア各地に求めた。帝国日本は日清戦争を皮切りに対外戦争を繰り返す、アジア・太平洋戦争で悲惨な終局を迎えた。海軍航空隊美保基地の掩体壕群 (米子市) や旧陸軍鳥取歩兵 40 連隊本部跡地 (鳥取市) をはじめ、県内にも多数のアジア・太平洋戦争時の遺跡や遺構が残されているが、十分な保存活用はなされていない。戦後 75 年が経過し、戦争を体験した人々が少なくなった現在、こうした文化財は戦争の歴史を物語る貴重な証人である。

近代の文化財は、現代社会の基礎をつくった近代化の歴史を伝える存在であるとともに、私たちが生きる近代という時代が歴史的過程であることを認識させてくれるものである。この認識こそが、私たちが新しい時代をつくっていく上で重要になるであろう。

【キーワード】 西洋科学技術、インフラストラクチャー、伝統産業の近代化、産業社会、資本家、戦争遺跡

【課題と展望】

近代の文化財はその「新しさ」から、保護すべき文化財であると十分認識されていない点に大きな課題がある。その歴史的な価値をあらためて明らかにし、県民に伝えるための努力が必要である。

また、近現代の建築物は伝統的な和風建築と異なり、修理や増改築によって長期間維持していくことを前提とせず建てられたものが多い。とりわけ、鉄やコンクリートで造られた建造物や土木構造物はその耐用年数に限りがある。そのため、少なくない数の建造物等が年々解体されており、また残された建造物等もいつ解体されてもおかしくない状況である。近代化遺産総合調査などでリスト化された文化財の現状調査を行い、保護が必要なものから順次対策を行う必要がある。

【主要な構成要素（東部）】

仁風閣（鳥取市、国・重文）	旧美敷水源地水道施設（鳥取市、国・重文）	石谷家住宅（智頭町、国・重文）
		
<p>明治40年（1907）、皇太子の山陰道行啓の宿舎として旧鳥取藩主池田仲博によって建築された。設計は片山東熊、監督は橋本平蔵である。ルネッサンス様式を基調とした風格ある白亜の洋風建築である。</p>	<p>大正4年（1915）に給水を開始した山陰最古の上水道施設。コンクリート造の貯水池堰堤を中心として、量水堰、制水井が付属した濾過池、接合井及び量水器室で構成されている。</p>	<p>石谷家は明治以降に大山林地主として智頭の林業振興の主翼を担った。大正から昭和初期に建てられた住宅は、当地産の杉を始め多様な樹種を用いて建てられた。主屋土間の豪壮な松の梁組、洗練された座敷の細部意匠などに当時の栄華をしのぶことができる。</p>

【構成文化財一覧（東部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
智頭の林業景観	智頭町	国・重文景	江戸時代以来のスギ植林と林業を中心とする暮らしが生んだ中山間地の景観
奥田家住宅	鳥取市	県・保護文	大正の上質な新座敷を中心とした邸宅
桂見の「二十世紀」ナシ親木	鳥取市	県・天記	1904年に北脇永治が松戸市から導入した20世紀ナシの原木
鹿野地震断層の痕跡	鳥取市	県・天記	1943年の鳥取大地震で生じた断層
智頭の林業関係資料	智頭町	県・有民	近代の林業の作業工程を体系的に示す道具
因州佐治みつまた紙	鳥取市	県・無民	明治以降に生産が本格化したみつまた紙の制作技術
智頭町板井原伝統的建造物群保存地区	智頭町	県・伝建	江戸後期～昭和初期の生業を反映した建物が多く残る山間部の集落
石谷氏庭園	智頭町	県・名勝	石谷家住宅敷地内にある近代の豪商の庭園
樗谿グランドアパート	鳥取市	市・有形	1930年に病院として建てられ、後に進駐軍将校宿舎として改修された木造洋風建築
元岩井小学校舎	岩美町	町・有形	1892年建築の擬洋風建築
鹿野の町並み	鳥取市	国・登録建造物	江戸後期～明治建築の町家が形成する町並み
杣小屋拱堰堤	鳥取市	国・登録建造物	石張・アーチ式形状が特徴の1951年竣工の砂防堰堤
五臓圓ビル	鳥取市	国・登録建造物	1931年建築の鳥取市内現存最古のRC造建物
鳥取民藝美術館	鳥取市	国・登録建造物	吉田璋也が設計し、民藝の意匠が施されたRC造・鉄骨造の土蔵風建物。1957年建築、1961年増築。
若桜鉄道	若桜町	国・登録建造物	1930年開通の旧国鉄若桜線の若桜駅、橋梁、沿線駅舎など23件が国登録。鉄道システム全体がよく残る。
木島家住宅主屋	若桜町	国・登録建造物	若桜の町並みを特徴づけるカリヤをもつ明治の町家
若桜橋	若桜町	国・登録建造物	1934年竣工の鉄筋コンクリート造3連アーチ橋
智頭消防団本町分団屯所	智頭町	国・登録建造物	1941年建築の下見板張・2階建の洋風建築
下町公民館	智頭町	国・登録建造物	1914年に智頭町役場として建築され、1928年に現在地に移築された下見板張・2階建の洋風建築
中町公民館	智頭町	国・登録建造物	大正期に病院として建てられた下見板張・2階建の洋風建築
智頭町立山形小学校校舎	智頭町	国・登録建造物	1942年建築の木造校舎

米原家住宅	智頭町	国・登録建造物	明治後期の大規模で上質な和風建築
鳥取歩兵 40 連隊本部跡地	鳥取市	史跡	1898 年建築の兵舎などが残る旧陸軍施設跡地

【主要な構成要素（中部）】

倉吉市打吹玉川伝統的建造物群保存地区（倉吉市、国重伝建）	小川家住宅（倉吉市、県保護文）、小川氏庭園（県・名勝）	鳥取県の緋資料（倉吉市、県・有民）
		
倉吉は中世末期の城下町から発達した商業都市で、伝建地区には主に明治から昭和戦前までの町家が多く残されており、近代前期の都市景観を今に伝えている。	小川家は江戸時代から酒造業を営んでおり、明治に合名会社を設立し、事業を拡大した。住宅は明治から昭和初期にかけて、庭園は昭和前期につくられた。倉吉の商家の住宅、近代庭園の代表例である。	明治の重要産業であった緋の生産過程を俯瞰することができる資料である。旧蔵者や来歴などの情報も付されており、社会背景や女性のくらしの変遷など、生活の歴史を物語る貴重な資料群である。

【構成文化財一覧（中部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
倉吉の鋳物師〔斎江家〕用具及び製品	倉吉市	国・有民	近世～近代の倉吉の重要産業であった鋳物の実態を伝える資料
桑田家住宅及び醤油醸造施設	倉吉市	県・保護文	明治～大正に建てられた主屋と醤油醸造施設からなる近代産業の展開を示す建物
高田酒造（高田家住宅及び醸造施設）	倉吉市	県・保護文	江戸末の主屋と明治の醸造施設からなる近世～近代の産業の実態を示す建物
桑田氏庭園	倉吉市	県・名勝	近代の町家の庭園の代表例
協同組合倉吉大店会（旧国立第三銀行倉吉支店）	倉吉市	国・登録建造物	1908 年建築の土蔵造擬洋風建築
旧倉吉町水源地	倉吉市	国・登録建造物	1932 年竣工の鉄筋コンクリート造の洋風建築のポンプ室などからなる倉吉最初の旧水道施設
清水川・小鴨川堰堤群	倉吉市	国・登録建造物	昭和 10 年代に造られた天神川水系初の砂防堰堤
飛龍閣	倉吉市	国・登録建造物	皇太子の山陰行敬時の宿泊所として 1904 年に建てられた近代和風建築
旅館大橋	三朝町	国・登録建造物	明治建築の木造三階建旅館
木屋旅館	三朝町	国・登録建造物	昭和初期建築の大規模な木造和風旅館
三朝橋	三朝町	国・登録建造物	1934 年竣工の木橋風デザインをもつ鉄筋コンクリート造 7 連桁橋
斎尾家住宅	北栄町	国・登録建造物	明治から昭和初期に建てられた建物が保存状態良く残る。1913 年建築の主屋は極めて上質な意匠をもつ近代的な農家建築。
塩谷定好写真記念館	琴浦町	国・登録建造物	明治建築の町家。芸術写真家として著名な塩谷定光の生家。
倉吉の千歯扱き及び関連資料	倉吉市	国・登録有民	近世～近代に全国的に流通した伯州千歯扱きと関連資料
鳥取の二十世紀梨栽培用具	倉吉市	国・登録有民	明治後期から栽培が開始され、鳥取県の主要農産物となった二十世紀梨の栽培・収穫出荷用具

【主要な構成要素（西部）】

旧日ノ丸自動車法勝寺鉄道車両 (南部町・米子市、県・保護文)	都合山たたら跡（日野町、県・史跡）	近藤家住宅（日野町、県・保護文）
		
<p>大正 13(1924)年に営業が開始され、米子市と南部町間の路線 12.4km を運行していた地方鉄道。デハ 201 形 203 号電動客車は、大正 11(1922)年に製造された国産電動客車である。フ 50 形フ 50 号附随客車は、1887 年のイギリス製で、国内に現存する最古の 4 輪木製三等客車である。また運行などに関わる資料も残されており、システムとしての鉄道を理解できる貴重な産業遺産である。</p>	<p>江戸時代末から明治 32 (1899) 年にかけて近藤家が経営したたたら場跡。明治 31 (1898) 年に倭国一東京帝大助教授により調査が行われ、操業時の具体的な様子が記録された。遺構の保存状態も良好で、江戸時代後期以来の「たたら吹き」による近藤家の鉄山経営の特色をよく示す遺跡である。</p>	<p>近藤家は、近世から近代にかけてたたら製鉄で栄え、製鉄業廃業後は林業経営を行ったほか、地元の文化や産業発展に寄与した鳥取県西部を代表する資本家である。近藤家住宅には、江戸時代末期から明治期に建築された建物が良好に残されている。</p>

【構成文化財一覧（西部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
大山町所子重要伝統的建造物群保存地区	大山町	国・重伝建	近世から昭和初期にかけて建築された伯耆地方の伝統的な農家建築が形成する農村集落
高田家住宅	米子市	県・保護文	近世に建築された主屋のほか、明治期に造られた養蚕場や薬用人参製造場などの近代産業遺構が残る豪農の住宅
南門脇家住宅	大山町	県・保護文	江戸後期～大正にかけて建築された近代和風建築
庄司家住宅	境港市	県・保護文	江戸後期～明治にかけて建築された豪商の住宅と出雲地方の影響を示す庭園
庄司家庭園	境港市	県・名勝	
旧米子市庁舎	米子市	市・有形	日比谷公会堂などの設計で著名な佐藤功一の設により 1930 年に竣工した鉄筋コンクリート造レンガ張りの本格的庁舎建築
米子専門大店	米子市	国・登録建造物	1924 年頃建築の RC 造の洋風意匠の商業ビル
旧米子市水源地水道施設	米子市	国・登録建造物	1926 年竣工の旧ポンプ室などからなる米子最初の水道施設
旧日野橋	米子市	国・登録建造物	1929 年竣工の鋼鉄製 6 連曲弦トラス橋
面谷家住宅	境港市	国・登録建造物	境港では希少な明治の町家と酒造施設
谷田貝家住宅	伯耆町	国・登録建造物	江戸末～明治建築の近代和風建築
蚊屋島神社	日吉津村	国・登録建造物	明治建築の社殿群で構成された、機能的に整備された近代的境内空間をもつ神社
御来屋駅	大山町	国・登録建造物	1902 年の境港―御来屋間山陰線運行開始当初に建てられた山陰線現役最古の木造駅舎
大山寺本堂	大山町	国・登録建造物	1951 年建築。中世様式に近代的な意匠を取り入れた近代寺院建築
日野町歴史民俗資料館 (旧根雨公会堂)	日野町	国・登録建造物	岡田孝男設計の和洋折衷様式による 1940 年建築の公共ホール建築
旧江尾発電所本館	江府町	国・登録建造物	1919 年建築の石造・洋風の旧水力発電施設
旧海軍美保航空隊美保基地周辺の戦争遺跡	米子市 境港市	史跡	1939 年創設の美保基地とその周辺の掩体壕や通信施設などからなる戦争遺跡

(11) 祈り、舞い、踊る、とっとりの四季 —祭礼と芸能—

【ストーリー】

鳥取県は、東部・中部・西部の3つに分けることができ、それぞれが特色ある文化圏を持っている。春には各地で祭礼があるが、鳥取県では四季のなかでこの春祭がもっとも盛んである。祭礼の神幸行列には、主に東部で東照宮祭礼に影響を受けた麒麟獅子舞や大名行列が多くみられる。麒麟獅子舞は鳥取藩初代藩主池田光仲が創始に関わると考えられており、以来因幡一円に広がっている。

初夏には、菖蒲を入れ込んだ綱を引く菖蒲綱引きが東部の海岸域で行われる。五月節供に綱引きを行うことは全国的にも珍しく、中部山間部の三朝では藤カズラを使った大きな綱引きが行われる。夏には多くの地区で盆踊りがある。踊りは多彩で、東郷浪人踊など戦国時代まで由緒が遡れる古いものがある一方、逢東盆踊りや江尾のこだいち踊りなど江戸時代に他地域との文化交流によって成立したものもある。また、東部では傘踊りなどの盆踊りグループが初盆宅に慰霊に訪れるのが特徴的である。

秋には、東部の山間部一円で、化粧回しをした花男が稲穂を思わせる華麗な花籠を奉納する。一方西部では、荒神・水神・地主神にたくさんの幣束とわら蛇を奉納する行事が広くみられ、収穫を感謝し申し上げることから、申し上げと呼ぶ。また西部の山間部では太鼓の囃子を中心としたかしら打ちが神社に奉納される。いずれも隣接県でも同様の行事や芸能がみられ、文化交流がうかがえる。

冬には小正月の火祭り行事が特徴的である。東部にはしめ縄飾りを厳重にほどこして巨大な焼き代をつくる酒津のトンドウがあり、弓浜半島を中心とする西部域では、歳徳神の神輿が集落を巡幸する、全国的にも類例をみないトンド行事が行われる。

祭りとは本来、その地域に住む人たちが、五穀豊穰や厄災除去などを祈って行ってきたものである。そこには人目を引く派手さはないかもしれないが、人々の切なる願いがこめられ、時に神秘的な様相を醸し出している。

【キーワード】 祭礼、民俗芸能、年中行事

【課題と展望】

祭礼や芸能は、各地域の文化や歴史を生き生きと語ってくれるものであり、本来的に地域の絆を深める性格を持っているため、地域の紐帯・振興の核としても注目されている。例えば、麒麟獅子舞は2019年5月に日本遺産に認定されたストーリー「日本海の風が生んだ絶景と秘境 幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」」の主要な構成要素になっている。

一方、伝承にあたって次のような課題がある。行事等を直接担う保護団体は、過疎化・少子高齢化による担い手人口の減少、無関心・無理解層の増加、生活環境の変化により、後継者の減少、財政基盤の縮小化、伝承に必要な技術伝承・材料確保困難がみられる。個々の団体によって状況が異なるため、各団体とその支援者（行政、財団等）が定期的なつながりをもって、どのような支援が必要・できうるのか、よく状況を確認して支援する必要がある。また、日本遺産のような観光活用を主眼とした施策により、周知は図られるものの、本来のあり方と異なる活用を求められる場合があり、保存と活用のバランスをよく保っていく必要がある。

【主要な構成要素】

城山神社祭礼行事（鳥取市、県・無民）	弓浜半島及び近隣地域のトンド（米子市ほか、県・無民選択）	馬佐良の申し上げ（南部町、県・無民）
		
祇園祭を模した屋台の出る、城山神社の春の祭礼行事。江戸後期に再興と伝わる。	歳徳神神輿が集落を巡幸するトンド行事。県西部に広く分布。江戸後期の銘を持つ神輿が残る。	荒神・水神・地主神に幣束とわら蛇を奉納する収穫感謝の祭。

因幡の麒麟獅子舞（鳥取市・岩美町・八頭町・智頭町・若桜町・湯梨浜町、国・重無民）	因幡の傘踊り（鳥取市、県・無民）	蛭井神社の花籠祭（智頭町、県・無民）
		
霊獣麒麟を思わせる獅子頭を用いて舞う因幡特有の獅子舞。神社の春・秋祭に奉納されるほか、氏子各家を門付けしてまわる。	長柄の大傘を用いて列になって踊る初盆供養の踊り。江戸後期に雨乞い踊りとして始まったとされる。	蛭井神社に氏子各地区から、竹ひごに色紙を巻き付けた花籠を奉納する行事。

【構成文化財一覧（東部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
酒津のトンドウ	鳥取市	国・重無民	小正月の火祭り行事。子どもが各戸を清めてまわるのが特徴。
岩坪神社獅子舞	鳥取市	県・無民	2頭で舞う神楽獅子舞。藩主池田家から木札を与えられた。
志加奴・城山神社獅子舞	鳥取市	県・無民	江戸初期に遡るとされる神楽獅子舞。麒麟獅子舞の影響を受ける。
口佐治神社の獅子舞	鳥取市	県・無民	伊勢大神楽の影響を受けて成立した獅子舞。
細尾の獅子舞	鳥取市	県・無民	江戸時代に伝わったとされる神楽獅子舞。現在休止。
越路雨乞踊	鳥取市	県・無民	雨乞成就の感謝の踊り。花笠をかぶって締太鼓を叩いて優美に踊る。
余戸の雨乞踊	鳥取市	県・無民	雨乞成就の感謝の踊り。江戸中期の風俗を伝えるとされる。現在休止。

亀井踊	鳥取市	県・無民	江戸初期の領主亀井氏の伝承に由来。因幡に伝わるはねそ踊りの発祥とも。
日置のはねそ踊	鳥取市	県・無民	因幡に伝わるはねそ踊りの一つ。重ねた白に破れ傘を持って音頭をとる。
百手の神事	鳥取市	県・無民	悪疫退散、五穀豊穡を祈願して、神官が一年を表す12本の矢を射る。
聖神社の神幸行列	鳥取市	県・無民	鳥取市中心部の聖神社春の祭礼。屋台行列が特徴。江戸中期開始。
賀露神社春季祭礼行事	鳥取市	県・無民	神輿の海上渡御、祭礼の火を鑽出す神事のほか通過儀礼もみられる。
円通寺人形芝居	鳥取市	県・無民	三味線、胡弓、締太鼓の伴奏により、七七調の念力節に合せて操る。
江波の三番叟	鳥取市	県・無民	江戸中期に大坂から伝わる。体をそらす所作が特徴。
因幡の菖蒲綱引き	鳥取市・岩美町	国・重無民	子どもにより、5月節供に行われる綱引き。
牧谷のはねそ踊	岩美町	県・無民	因幡に伝わるはねそ踊りの一つ。男女対になって踊るのが特徴。
諏訪神社の柱祭り	智頭町	県・無民	山から切り出した神木を、行列して神社本殿の四隅に建てる行事。
花籠祭	鳥取市、八頭町、智頭町	県・無民選択	竹ひごに色紙を巻き付けた花籠を奉納。鳥取東部山間部に広く分布。

【構成文化財一覧（中部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
東郷浪人踊	湯梨浜町	県・無民	羽衣石城落城の伝承に由来。手をたたく際も音をたてず静かに踊る。
田後神社頭屋祭「宮の飯」	湯梨浜町	県・無民	旧暦11月1日に、世襲制の頭人が御供をつくり、神に捧げる。
三朝のジンショ	三朝町	国・無民	藤葛を用いた大綱をつないで引き合う、5月節供の綱引き。
さいとりさし	三朝町 倉吉市	県・無民	鷹狩りの餌鳥を捕るさいとりさしを狂言風に踊ったもの。
三本杉の盆踊	琴浦町	県・無民	江戸中期から始まるとされる盆踊り。
逢東盆踊り	琴浦町	県・無民	港町逢東に海上文化交流を経て伝わった5つの踊り。

【構成文化財一覧（西部）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
米子盆踊	米子市	県・無民	米子市富士見町に伝わる盆踊り。3種の踊りが伝わる。
竹内町のオコニャ	境港市	県・無民選択	草分けを中心とするモット（同族組織）が輪番で大餅を奉納する。
福岡神社神事	伯耆町	県・無民	福岡神社秋の祭礼。勇壮な裸祭り「蛸舞式」が特徴。
小松谷盆踊	南部町	県・無民	小松谷川に沿った御内谷に伝わる。8月17日夜に踊られる。
赤松の荒神祭	大山町	県・無民	閏年の3月第1日曜に、藁で作った大蛇を荒神に奉納する神事。
日南のかしら打ち	日南町	県・無民	家内安全を祈念して神社に奉納される太鼓の囃子を中心とする芸能。
下蚊屋の荒神神楽	江府町	県・無民	大正末期頃、美作から来る荒神神楽を村の若者が習い伝えたもの。
江尾のこだいぢ踊	江府町	県・無民	新保広大寺節をまねて伝承と考えられる。8月17日夜に踊る。
出雲・伯耆の荒神祭	鳥取県	国・無民選択	農耕の神、牛の神としての荒神に収穫を感謝する行事。

(12) ふるさと鳥取の暮らし ―郷土に残る装い・食・住まい―

【ストーリー】

庶民の衣類として緋などの木綿織物が挙げられるが、日本において綿栽培が広く行われるようになったのは中世後期のことと言われ、それ以前は麻や楮、藤などの植物繊維で織られた布を衣類として用いられてきた。わずかながら古代の繊維製品が発掘調査により得られている。県内では宝暦年間（1751～64）に米子において緋織が始まったという記録があり、以後伯耆を中心に明治から昭和初期にかけて生産は続いた。生産工程のすべてを手作業で行い、化学染料も用いないところに特徴があり、県の有形民俗文化財に指定されている「鳥取の緋関係資料」は一連の制作工程に係る道具類や製品等まとまった資料群である。さらに緋制作の技術保持者として福井貞子（倉吉市）、嶋田悦子（境港市）の2名が認定されているほか、弓浜緋も県の無形文化財に指定され、弓浜緋保存会が保存・伝承の活動を続けている。また染織および紙布が無形文化財に指定され、それぞれの保持者として山下 健（鳥取市）が認定されている。

鳥取を代表する味覚には、夏は白いかかに岩ガキ、冬の松葉ガニ、地鶏や和牛・乳製品、ラッキョウや長芋、白ネギや20世紀ナシなど、海・山・砂丘地など多様な自然環境から生み出された多種多様な食材がそろっている。海産物については、すでに縄文時代後期の桂見遺跡出土丸木舟（県保護文化財）が示すように海へ出て食材を得ていたことが想定され、青谷上寺地遺跡（国史跡）から出土した動植物の残滓や骨製品などから、周辺で得られる素材を食していたことがわかる。今でも青谷は岩ガキの主要産地であるが、同遺跡からも出土しているし、時代は少し下るが、湯梨浜町南谷遺跡では鎌倉時代初頭のシジミの貝塚が見つまっている。こうした漁撈は古くから連続と受け継がれつつ、時代に即し道具や漁猟方法が改良されてきていることが、泊の漁業関係資料（県有形民俗文化財）からみてとれる。

住まいも人にとって暮らしていく上で必要な要素である。中世以前においては、発掘調査で検出された遺構や遺物などからその構造を探ることができ、とくに焼失住居や青谷上寺地遺跡などから出土した構造材などの検討により具体が明らかになり、むきばんだ史跡公園などにはその成果を反映した復元住居が建つ。近世以降、県内の伝統的な民家は、主屋の配置及び間取りから主屋を道路から離れた敷地の中央寄りに建てる「農家型」と、主屋を道路に面して建てる「町家型」に大別でき、後者においては倉吉玉川伝統的建造物群保存地区をはじめ鳥取や米子の旧城下町、根雨や智頭など旧街道沿いの宿場町に多くみられる。さらに近代になり、近世以来の伝統を継承するものと新思想を取り入れた近代住宅という二つの流れがあり、都市圏から建築家を招く一方、県内の大工が工夫を凝らしながら伝統的民家に新たな形を取り入れていった。鳥取県は圏域の約74%とその多くを森林地帯が占め、こうした建材は古代以来近隣から得ることが可能であった。また、その生業活動から生み出された景観は、智頭の林業景観を代表として今に留めるほか、多様で特徴的な樹相については社叢などとして管理されてきており、指定天然記念物となっているものが多い。

【キーワード】 庶民の道具、鳥取民藝、多様な自然環境

【課題と展望】

衣食住とも有機質素材であり、その保存方法が問題となる。特に衣では素材だけでなく、製作技術者の育成が大きな課題となる一方、弓浜緋・倉吉緋双方ともにそれぞれ後継者育成の取組みが継続しており、今後に期待できよう。

建造物においても指定文化財建造物所有者の世代交代は大きな課題であり、今後の管理運営体制をどのように構築していくか、公開活用方法などと合わせ多様な検討が必要となってきた。鳥取県では鳥取建築士会が中心となりヘリテージマネージャー制度ができたことにより、文化財建造物の掘り起こしや活用・修理など様々な事象に対応できるようになってきている。

【主要な構成要素】

<p>弓浜緋（米子市・境港市、県・無形）</p>	<p>二十世紀梨栽培用具（倉吉市、国・登録有民）</p>	<p>倉吉市打吹玉川伝統的建造物群保存地区（倉吉市、重伝建）</p>
		
<p>鳥取県西部の弓浜半島周辺に伝えられる伝統工芸。手つむぎ糸を使用し、天然藍で染める。寛政年間（1789～1800）に、米子の車尾で「つかみ絞」という簡単な絞り染め技法をもとに始まったと伝えられ、綿織物が農家唯一の衣料だったこともあり、藩政期の終わりには、藩の保護と指導のもとに農家の副業として発展した。現在は保存会により技術の保存伝承が図られている。</p>	<p>明治後期から栽培されてきた二十世紀梨の栽培用具。栽培に用いた各種用具が揃っており、当地の産業として重要な役割を果たしてきた梨栽培の実態を理解するうえで貴重。また、養蚕業からの移行を示す資料を一部含んでおり、生業の変遷をうかがうことができるとともに、梨栽培にとって重要な病菌害防除のための用具もあって、近現代における果樹栽培技術の発達の様相を示すものである。</p>	<p>保存地区の町家は、主屋、土蔵、離れ、付属屋、裏門倉等の伝統的建造物で構成されている。建築年代は、江戸時代末期が数棟、明治時代中後期が約3割、大正期が約2割、昭和前期が約2割という構成になる。保存地区中央を流れる玉川沿いには白壁の土蔵群があり、他にも近代の倉吉を象徴する土蔵造・二階建の「倉吉大店会」もある。江戸時代から明治・大正時代にかけて商工業都市として栄えた倉吉の街並みの歴史的景観をよく伝えている。</p>

【構成文化財一覧（装い）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
緋（保持者：福井貞子）	倉吉市	県・無形	倉吉緋の第一人者であり、緋研究者。
緋（保持者：嶋田悦子）	境港市	県・無形	弓浜緋の第一人者。
染織（保持者：山下 健）	鳥取市	県・無形	弓浜緋の技法を受け継ぎつつ、柳義孝氏の教えを独自に発展させる。
紙布（保持者：山下 健）	鳥取市	県・無形	紙布による織物製作の第一人者。
鳥取県の緋関係資料	倉吉市	県・有民	明治の重要産業であった緋の生産過程を俯瞰することができる資料。
伝 亀井茲矩将来品	鳥取市	県・保護文	譲伝寺に伝わる、鹿野城主亀井武蔵守茲矩が寄進したとされる織物3点
伯州綿栽培用具	米子市 日吉津村	有形民俗	中海などの藻葉を肥料とした砂畑における綿栽培。

【構成文化財一覧（食）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
倉吉の鋳物師用具及び製品	倉吉市	国・重有民	近世～近代の倉吉の重要産業であった鋳物の実態を伝える資料
泊の漁業関係資料	湯梨浜町	県・有民	昭和 40 年代までの多様な資料により、泊で行われていた漁業形態をよく表す。
湖山池の石がま漁	鳥取市	県・無民	湖山池で江戸時代前期から行われていたとされる伝統的な漁法。
桂見の「二十世紀」ナシ親木	鳥取市	県・天記	千葉県松戸市の原木から苗木として導入し現在に残る貴重な親木。
倉吉の千歯扱き及び関連資料	倉吉市	国・登録有民	近世～近代に全国的に流通した伯州千歯扱きと関連資料

【構成文化財一覧（住まい）】

名称	所在地	指定・分類等	内容
大山町所子伝統的建造物群保存地区	大山町	国・伝建	近世から昭和初期にかけて建築された伯耆地方の伝統的な農家建築が形成する農村集落
若桜町伝統的建造物群保存地区	若桜町	伝建	若桜鬼ヶ城城下町として発展。その町割りや街道筋を踏襲し、近代以降の建物が良好に残る。
福田家住宅	鳥取市	国・重文	津ノ井村の庄屋を勤めた旧家の住宅。17 世紀を下らない。
後藤家住宅、主屋・一番蔵・二番蔵	米子市	国・重文	廻船問屋を営んでいた後藤家の住宅。主屋は江戸中期の建築。
矢部家住宅	八頭町	国・重文	江戸時代の大庄屋の住宅で、17 世紀初頭のもの。
石谷家住宅	智頭町	国・重文	元禄年間に智頭へ移り住んだと伝えられる石谷家の居宅。大正 8 年から昭和 4 年にかけて建てられた。
河本家住宅	琴浦町	国・重文	主屋は万治元年（1659）以前の建築。
門脇家住宅、主屋 水車小屋 米蔵 新蔵	大山町	国・重文	明和 6 年（1769）建築の住宅で、伯耆特有の寄棟造。
尾崎家住宅	湯梨浜町	国・重文	宗旨庄屋や大庄屋を勤めた豪農の、江戸時代中期の農家建築。
木下家住宅	鳥取市	県・保護文	智頭往来沿いに建つ、江戸中期の大庄屋の屋敷。
鳥飼家住宅 附家相図一枚	倉吉市	県・保護文	藩政期、関金の庄屋の住宅。江戸中期の民家として貴重。
桑田家住宅及び醤油醸造施設	倉吉市	県・保護文	明治～大正に建てられた主屋と醤油醸造施設からなる近代産業の展開を示す建物
高田酒造（高田家住宅及び醸造施設）	倉吉市	県・保護文	江戸末の主屋と明治の醸造施設からなる近世～近代の産業の実態を示す建物
高田家住宅 附家相図一枚	米子市	県・保護文	近世に建築された主屋のほか、明治期に造られた養蚕場や薬用人参製造場などの近代産業遺構が残る豪農の住宅
三百田氏住宅 附一代普請方合人数帳一冊	若桜町	県・保護文	庄屋を勤めた旧家の元禄期の住宅。
吉持家住宅 附棟札二枚	南部町	県・保護文	長者原台地の開拓に尽力した大庄屋の江戸後期の住宅。
南門脇家住宅	大山町	県・保護文	江戸後期～大正にかけて建築された近代和風建築

奥田家住宅	鳥取市	県・保護文	大正の上質な新座敷を中心とした邸宅
小川家住宅（主屋、道具蔵、二階蔵、三階蔵、ビン詰場、旧仕込蔵）	倉吉市	県・保護文	小川家住宅は明治から昭和初期にかけて、庭園は昭和前期につくられた。倉吉の商家の住宅、近代庭園の代表例である。
近藤家住宅	日野町	県・保護文	近世から近代にかけてたたら製鉄で栄え、製鉄業廃業後は林業経営を行ったほか、地元の文化や産業発展に寄与した鳥取県西部を代表する資本家
青谷上寺地遺跡出土遺物	鳥取市	国・重文	弥生の匠の技を伝える木器等
妻木晩田遺跡	米子市 大山町	国・史跡	弥生時代後半（1～3世紀）に営まれた大規模な集落跡
智頭の林業景観	智頭町	国・重文景	江戸時代以来のスギ植林と林業を中心とする暮らしが生んだ中山間地の景観
智頭の林業関係資料	智頭町	県・有民	近代の林業の作業工程を体系的に示す道具
因州佐治みつまた紙	鳥取市	県・無形	明治以降に生産が本格化したみつまた紙の制作技術
因州青谷こうぞ紙	鳥取市	県・無形	明治以降に生産が本格化したこうぞ紙の制作技術
木工芸（保持者：茗荷定治）	若桜町	県・無形	鳥取県指定無形文化財保持者第1号。
木工芸（保持者：福田豊）	倉吉市	県・無形	鳥取民藝木工家具を今に伝える現存唯一の職人。